

JS05-PDF-001

5-1 固定法 > 副子 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・副子固定の基本目的を理解する】「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 副子の目的ではない。

イ. 副子は損傷部の動きを制限し、骨・関節・軟部組織を保護するために用いる。

ウ. 急性期では二次損傷を招く。

エ. 固定は治癒環境を整える手段である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「全身の筋力を直ちに増強する」に関する内容で、今回の「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「損傷部を積極的に反復運動させる」に関する内容で、今回の「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨癒合を一瞬で完成させる」に関する内容で、今回の「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷部を安静に保ち、疼痛軽減と二次損傷予防を図る」が適切である。根拠は、副子は損傷部の動きを制限し、骨・関節・軟部組織を保護するために用いる。

JS05-PDF-002

5-1 固定法 > 副子 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・急性期に副子を用いる利点を理解する】実習生が「副子では末梢循環評価が不要だから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨折の初期固定にも用いられる。

イ. 副子は全周を密閉しないため、急性期の腫脹に対して調整しやすい。

ウ. 必要な範囲を固定する。

エ. 固定前後の神経血管評価は必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「副子は骨折には使用できないから」に関する内容で、今回の誤判断「副子では末梢循環評価が不要だから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腫脹変化に対応しやすく、過度な圧迫を避けやすい」に関する内容で、今回の誤判断「副子では末梢循環評価が不要だから」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「副子は必ず関節を自由に動かせるから」に関する内容で、今回の誤判断「副子では末梢循環評価が不要だから」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「副子では末梢循環評価が不要だから」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「副子では末梢循環評価が不要だから」は不適切である。理由は、固定前後の神経血管評価は必要である。この論点での適切な判断は「腫脹変化に対応しやすく、過度な圧迫を避けやすい」である。

JS05-PDF-003

5-1 固定法 > 副子 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・副子固定の神経血管評価を理解する】「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定圧迫の評価には不十分である。
- イ. 患肢固定の安全確認にはならない。
- ウ. 固定により神経・血管が圧迫されていないか確認する。
- エ. 患肢末梢の神経血管評価が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「身長と体重だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「視力と聴力」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「反対側肩関節の可動域だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」が適切である。根拠は、固定により神経・血管が圧迫されていないか確認する。

JS05-PDF-004

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・副子固定後の警告所見を判断する】実習生が「数日後まで患肢を観察しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血や神経障害の危険がある。
- イ. 蒼白や感覚悪化は過度な圧迫の警告所見である。
- ウ. 速やかな再評価が必要である。
- エ. 圧迫を悪化させる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「正常な固定反応として放置する」に関する内容で、今回の誤判断「数日後まで患肢を観察しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「固定による循環・神経圧迫を疑い直ちに再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「数日後まで患肢を観察しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「数日後まで患肢を観察しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「さらに副子を強く締める」に関する内容で、今回の誤判断「数日後まで患肢を観察しない」の理由ではない。

総合解説：「数日後まで患肢を観察しない」は不適切である。理由は、速やかな再評価が必要である。この論点での適切な判断は「固定による循環・神経圧迫を疑い直ちに再評価する」である。

JS05-PDF-005

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・副子装着時の圧迫予防を理解する】「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 皮膚損傷の有無を確認すべきである。
- イ. 圧迫点を避け、損傷部と必要な隣接関節を適切に保護する。
- ウ. 損傷部の安定化にならない。
- エ. 褥瘡や神経圧迫を起こし得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮膚状態を確認せず装着する」に関する内容で、今回の「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「患部から離れた部位だけを固定する」に関する内容で、今回の「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨突出部へ最も強い圧を集中させる」に関する内容で、今回の「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨突出部を十分に保護し、必要な固定範囲を支持する」が適切である。根拠は、圧迫点を避け、損傷部と必要な隣接関節を適切に保護する。

JS05-PDF-006

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・固定範囲の考え方を理解する】実習生が「筋萎縮を促進するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 必要に応じ上下の関節運動を制限し骨折部を保護する。
- イ. むしろ不必要な長期固定は避ける。
- ウ. 治癒後は機能回復が必要である。
- エ. 循環障害は避けるべきである。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨折部に加わる回旋や剪断を減らし安定性を高めるため」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮を促進するため」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「筋萎縮を促進するため」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「隣接関節を永久に動かなくするため」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮を促進するため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「末梢循環を低下させるため」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮を促進するため」の理由ではない。

総合解説：「筋萎縮を促進するため」は不適切である。理由は、むしろ不必要な長期固定は避ける。この論点での適切な判断は「骨折部に加わる回旋や剪断を減らし安定性を高めるため」である。

JS05-PDF-007

5-1 固定法 > 副子 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・副子の固定肢位を理解する】「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定肢位は損傷型と機能予後を考えて決める。
- イ. 拘縮予防や機能予後も重要である。
- ウ. 部位・損傷型で適切な肢位は異なる。
- エ. 疼痛や二次損傷を増やす。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「末梢関節の機能を一切考えない」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「どの損傷でも同じ肢位にする」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「最も痛い肢位を選ぶ」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷部の安定性と将来の機能を考慮して適切な肢位を選ぶ」が適切である。根拠は、固定肢位は損傷型と機能予後を考えて決める。

JS05-PDF-008

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・固定中の患者教育を理解する】実習生が「濡れて変形してもそのまま使う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定機能や皮膚状態が悪化する。
- イ. 固定圧迫や腫脹増悪の警告所見を患者自身も把握する必要がある。
- ウ. 神経圧迫の可能性がある。
- エ. 皮膚損傷を招く。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「濡れて変形してもそのまま使う」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「しびれ、冷感、強い腫脹、疼痛増悪があれば早めに再評価を受ける」に関する内容で、今回の誤判断「濡れて変形してもそのまま使う」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「しびれは必ず正常なので無視する」に関する内容で、今回の誤判断「濡れて変形してもそのまま使う」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「副子内へ硬い物を入れて搔く」に関する内容で、今回の誤判断「濡れて変形してもそのまま使う」の理由ではない。

総合解説：「濡れて変形してもそのまま使う」は不適切である。理由は、固定機能や皮膚状態が悪化する。この論点での適切な判断は「しびれ、冷感、強い腫脹、疼痛増悪があれば早めに再評価を受ける」である。

JS05-PDF-009

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・腫脹変化に応じた副子調整を理解する】「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定性不足で再転位し得る。
- イ. 腫脹変化により固定の適合性は変わるため再評価が必要である。
- ウ. 固定性低下時は整復位も確認する。
- エ. 状態に応じて適切に調整する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「緩いほど治癒が早いので放置する」に関する内容で、今回の「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「整復位の確認は不要である」に関する内容で、今回の「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ずさらに厚い副子を重ねる」に関する内容で、今回の「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「固定性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ調整する」が適切である。根拠は、腫脹変化により固定の適合性は変わるため再評価が必要である。

JS05-PDF-010

5-1 固定法 > 副子 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・長期固定の弊害を理解する】実習生が「骨折部が必ず再転位する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 活動低下でむしろ低下し得る。
- イ. 固定時間とは直接関係しない。
- ウ. 不必要な長期固定は可動域低下と筋力低下を招く。
- エ. 長期固定の代表的問題は拘縮・廃用である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「全身持久力が必ず向上する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部が必ず再転位する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「感覚神経が必ず再生する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部が必ず再転位する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節拘縮や筋萎縮」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部が必ず再転位する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「骨折部が必ず再転位する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「骨折部が必ず再転位する」は不適切である。理由は、長期固定の代表的問題は拘縮・廃用である。この論点での適切な判断は「関節拘縮や筋萎縮」である。

JS05-PDF-011

5-1 固定法 > 副子 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：副子・副子固定後の重篤合併症を認識する】「コンパートメント症候群などの循環障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 重篤合併症を除外すべきである。
- イ. むしろ緊急再評価が必要なことがある。
- ウ. 急性疼痛増悪の説明にならない。
- エ. 固定後の増悪する疼痛は圧迫や区画内圧上昇の警告所見となる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず正常な骨癒合反応である」に関する内容で、今回の「コンパートメント症候群などの循環障害」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「治癒完成のサインである」に関する内容で、今回の「コンパートメント症候群などの循環障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力増強の兆候である」に関する内容で、今回の「コンパートメント症候群などの循環障害」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「コンパートメント症候群などの循環障害」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「コンパートメント症候群などの循環障害」が適切である。根拠は、固定後の増悪する疼痛は圧迫や区画内圧上昇の警告所見となる。

JS05-PDF-012

5-1 固定法 > 副子 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：副子・副子除去後の段階的後療法を理解する】実習生が「筋力低下は評価しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 組織損傷を招く可能性がある。
- イ. 再損傷の危険がある。
- ウ. 固定解除後は組織強度と機能低下を考慮して負荷を増やす。
- エ. 固定後には筋力低下が生じやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「拘縮があれば痛みを無視して強制的に動かす」に関する内容で、今回の誤判断「筋力低下は評価しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「初日から最大抵抗運動を行う」に関する内容で、今回の誤判断「筋力低下は評価しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨・軟部組織の治癒状況を確認し、可動域と筋力を段階的に回復する」に関する内容で、今回の誤判断「筋力低下は評価しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「筋力低下は評価しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「筋力低下は評価しない」は不適切である。理由は、固定後には筋力低下が生じやすい。この論点での適切な判断は「骨・軟部組織の治癒状況を確認し、可動域と筋力を段階的に回復する」である。

JS05-PDF-013

5-1 固定法 > 包帯 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：包帯・弾性包帯の目的を理解する】「腫脹を抑え、患部を支持する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血を起こしてはならない。
- イ. 適度な圧迫は浮腫管理と支持に用いられる。
- ウ. 神経圧迫は避ける。
- エ. 包帯だけで整復を保証しない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を完全に遮断する」に関する内容で、今回の「腫脹を抑え、患部を支持する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「腫脹を抑え、患部を支持する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「皮膚感覚を消失させる」に関する内容で、今回の「腫脹を抑え、患部を支持する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折部を必ず完全整復する」に関する内容で、今回の「腫脹を抑え、患部を支持する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腫脹を抑え、患部を支持する」が適切である。根拠は、適度な圧迫は浮腫管理と支持に用いられる。

JS05-PDF-014

5-1 固定法 > 包帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：包帯・包帯の基本的な巻き方を理解する】実習生が「皮膚のしわを作るほど強く巻く」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 末梢うっ血を助長する。
- イ. 圧迫障害の原因となる。
- ウ. 浮腫管理では末梢部から中枢方向へ圧をつなげる。
- エ. 局所圧迫を起こす。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「中枢から末梢だけへ強く締める」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚のしわを作るほど強く巻く」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「皮膚のしわを作るほど強く巻く」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「末梢から中枢へ向けて重ねながら巻く」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚のしわを作るほど強く巻く」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「同じ場所だけを何十周も巻く」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚のしわを作るほど強く巻く」の理由ではない。

総合解説：「皮膚のしわを作るほど強く巻く」は不適切である。理由は、圧迫障害の原因となる。この論点での適切な判断は「末梢から中枢へ向けて重ねながら巻く」である。

JS05-PDF-015

5-1 固定法 > 包帯 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：包帯・包帯後の安全確認を理解する】「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所循環評価にならない。
- イ. 過度な圧迫による循環・神経障害がないか確認する。
- ウ. 患肢圧迫評価にならない。
- エ. 包帯圧の安全性を評価できない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「反対側耳介のみ」に関する内容で、今回の「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「視力のみ」に関する内容で、今回の「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「身長のみ」に関する内容で、今回の「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「皮膚色、冷感、感覚、末梢循環」が適切である。根拠は、過度な圧迫による循環・神経障害がないか確認する。

JS05-PDF-016

5-1 固定法 > 包帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：包帯・包帯による圧迫障害を認識する】実習生が「色調変化は包帯と無関係である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 速やかな調整が必要である。
- イ. 循環障害を悪化させる。
- ウ. うっ血・神経圧迫の可能性がある。
- エ. 圧迫による循環変化があり得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「数日そのままにする」に関する内容で、今回の誤判断「色調変化は包帯と無関係である」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「正常なのでさらに締める」に関する内容で、今回の誤判断「色調変化は包帯と無関係である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「過度な圧迫を疑い、直ちに包帯を再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「色調変化は包帯と無関係である」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「色調変化は包帯と無関係である」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「色調変化は包帯と無関係である」は不適切である。理由は、圧迫による循環変化があり得る。この論点での適切な判断は「過度な圧迫を疑い、直ちに包帯を再評価する」である。

JS05-PDF-017

5-1 固定法 > 包帯 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：包帯・包帯の局所圧迫を予防する】「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 関係しない。

イ. 包帯のしわとは無関係である。

ウ. 主目的は圧迫障害予防である。

エ. しわは圧が集中し、発赤・水疱・神経圧迫を生じ得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨癒合を止めるため」に関する内容で、今回の「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「筋力を増やすため」に関する内容で、今回の「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「包帯の色を均一にするためだけ」に関する内容で、今回の「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「局所的な圧迫と皮膚障害を防ぐため」が適切である。根拠は、しわは圧が集中し、発赤・水疱・神経圧迫を生じ得る。

JS05-PDF-018

5-1 固定法 > 包帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：包帯・足関節への圧迫包帯の安全性を理解する】実習生が「腫脹が増えても巻き直さない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 支持と浮腫管理を行いながら虚血を防ぐ。

イ. 適合性を再評価すべきである。

ウ. 循環障害を招く。

エ. 末梢循環評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「損傷部を支持しつつ末梢循環を妨げない圧にする」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹が増えても巻き直さない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「腫脹が増えても巻き直さない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が強いほど最大圧で締める」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹が増えても巻き直さない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足趾の色調は確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹が増えても巻き直さない」の理由ではない。

総合解説：「腫脹が増えても巻き直さない」は不適切である。理由は、適合性を再評価すべきである。この論点での適切な判断は「損傷部を支持しつつ末梢循環を妨げない圧にする」である。

JS05-PDF-019

5-1 固定法 > 包帯 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：包帯・腫脹変化と包帯圧を理解する】「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 臨床目的ではない。

イ. 関係しない。

ウ. 包帯圧調整の理由ではない。

エ. 時間経過で腫脹が変わると同じ包帯でも締めすぎ・緩みが生じる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「毎回違う色の包帯にするため」に関する内容で、今回の「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「体温測定を不要にするため」に関する内容で、今回の「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折型が必ず変化するため」に関する内容で、今回の「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「腫脹の増減で適切な圧が変化するため」が適切である。根拠は、時間経過で腫脹が変わると同じ包帯でも締めすぎ・緩みが生じる。

JS05-PDF-020

5-1 固定法 > 包帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：包帯・包帯使用中の患者教育を理解する】実習生が「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 長時間圧迫では皮膚障害が起こり得る。

イ. 皮膚トラブルや固定性低下につながる。

ウ. 圧迫障害の可能性がある。

エ. 皮膚障害と神経圧迫の早期発見に重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮膚状態は確認しなくてよい」に関する内容で、今回の誤判断「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「しびれが増えても正常と考える」に関する内容で、今回の誤判断「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚の発赤・水疱・しびれがないか確認する」に関する内容で、今回の誤判断「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」の理由ではない。

総合解説：「濡れた包帯でも必ずそのまま使用する」は不適切である。理由は、皮膚トラブルや固定性低下につながる。この論点での適切な判断は「皮膚の発赤・水疱・しびれがないか確認する」である。

JS05-PDF-021

5-1 固定法 > 包帯 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：包帯・包帯固定の特徴を理解する】「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 強固な固定が必要なら副子等を併用する。

イ. 腫脹・皮膚・循環を経時評価する。

ウ. 包帯は体表に合わせて巻き方や圧を調整できる。

エ. 安全確認は必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「どの損傷でも完全固定できる」に関する内容で、今回の「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「固定期間中の再評価が不要になる」に関する内容で、今回の「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「神経血管評価が不要になる」に関する内容で、今回の「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「形状に合わせて支持や圧迫を調整しやすい」が適切である。根拠は、包帯は体表に合わせて巻き方や圧を調整できる。

JS05-PDF-022

5-1 固定法 > 包帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：包帯・包帯圧迫の過不足を評価する】実習生が「皮膚所見は包帯と無関係とする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 圧迫による可能性が高い。

イ. 悪化させる。

ウ. 持続する圧痕や発赤は局所圧迫のサインとなる。

エ. 皮膚障害の可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「皮膚所見は包帯と無関係とする」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「さらに強い圧で巻き直す」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚所見は包帯と無関係とする」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「圧迫が強すぎた可能性を考え、皮膚・循環状態と巻き方を再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚所見は包帯と無関係とする」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「理想的な圧迫だった証拠と考える」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚所見は包帯と無関係とする」の理由ではない。

総合解説：「皮膚所見は包帯と無関係とする」は不適切である。理由は、圧迫による可能性が高い。この論点での適切な判断は「圧迫が強すぎた可能性を考え、皮膚・循環状態と巻き方を再評価する」である。

JS05-PDF-023

5-1 固定法 > テーピング 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：テーピング・テーピングの目的を理解する】「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. テーピング単独で骨折整復を保証しない。

イ. 必要な機能を残して支持する。

ウ. 適切な評価が前提である。

エ. テーピングは必要な動作を保ちながら危険な方向への動きを制限する目的で用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨折を必ず完全整復する」に関する内容で、今回の「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「全関節運動を永久に消失させる」に関する内容で、今回の「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛原因を診断せず隠す」に関する内容で、今回の「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「関節や軟部組織を支持し、過度な動きを制限する」が適切である。根拠は、テーピングは必要な動作を保ちながら危険な方向への動きを制限する目的で用いられる。

JS05-PDF-024

5-1 固定法 > テーピング 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：テーピング・足関節テーピングの制限方向を理解する】実習生が「膝伸展」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 足関節外側靭帯の再発方向ではない。

イ. 局所が異なる。

ウ. 上肢の動作である。

エ. 外側靭帯損傷後では再び内反する動きを抑える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「膝伸展」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩外転」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「前腕回内」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「過度な内反」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展」の理由ではない。

総合解説：「膝伸展」は不適切である。理由は、足関節外側靭帯の再発方向ではない。この論点での適切な判断は「過度な内反」である。

JS05-PDF-025

5-1 固定法 > テーピング 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：テーピング・テーピング前評価を理解する】「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷評価に基づくべきである。

イ. 皮膚障害を避け、目的に合った貼付を行うため事前評価が必要である。

ウ. 患部評価が必要である。

エ. 臨床目的とは無関係である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛部位を確認せず貼る」に関する内容で、今回の「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「反対側肩関節だけ」に関する内容で、今回の「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者の靴の色だけ」に関する内容で、今回の「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「皮膚状態、循環、損傷部位と制限したい動き」が適切である。根拠は、皮膚障害を避け、目的に合った貼付を行うため事前評価が必要である。

JS05-PDF-026

5-1 固定法 > テーピング 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：テーピング・テーピングの圧迫障害を認識する】実習生が「支持効果が高い証拠として継続する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 神経血管圧迫の可能性がある。

イ. 危険である。

ウ. 圧迫障害を悪化させる。

エ. 速やかに対応する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「過度な圧迫を疑い、直ちにテープを緩める・除去して再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「支持効果が高い証拠として継続する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「さらに強く巻き足す」に関する内容で、今回の誤判断「支持効果が高い証拠として継続する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「支持効果が高い証拠として継続する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「競技終了まで確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「支持効果が高い証拠として継続する」の理由ではない。

総合解説：「支持効果が高い証拠として継続する」は不適切である。理由は、圧迫障害を悪化させる。この論点での適切な判断は「過度な圧迫を疑い、直ちにテープを緩める・除去して再評価する」である。

JS05-PDF-027

5-1 固定法 > テーピング 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：テーピング・テーピングの適応限界を理解する】「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 代表的用途である。

イ. テーピングの適応となり得る。

ウ. テーピングは支持・動作制限に向くが、不安定骨折では十分な固定力が得にくい。

エ. 適切に使用される。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「運動時の補助的支援を目的とする場合」に関する内容で、今回の「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「軽度の関節支援を目的とする場合」に関する内容で、今回の「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「再発予防を目的とする場合」に関する内容で、今回の「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「不安定な骨折で強固な固定が必要な場合」が適切である。根拠は、テーピングは支持・動作制限に向くが、不安定骨折では十分な固定力が得にくい。

JS05-PDF-028

5-1 固定法 > テーピング 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：テーピング・テーピングによる皮膚障害を予防する】実習生が「皮膚状態の確認を省略する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 安全な貼付の前提である。

イ. 表皮損傷を招く。

ウ. 皮膚障害を悪化させる。

エ. 接着剤による皮膚炎や剥離に注意する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「皮膚状態の確認を省略する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「剥がす際に皮膚を強く引っ張る」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚状態の確認を省略する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「発赤があっても同じ場所へ強く貼る」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚状態の確認を省略する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚反応を確認し、必要に応じ保護材や別の支持方法を検討する」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚状態の確認を省略する」の理由ではない。

総合解説：「皮膚状態の確認を省略する」は不適切である。理由は、安全な貼付の前提である。この論点での適切な判断は「皮膚反応を確認し、必要に応じ保護材や別の支持方法を検討する」である。

JS05-PDF-029

5-1 固定法 > テーピング 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：テーピング・テーピングの補助的位置付けを理解する】「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷状態の評価が優先される。

イ. 復帰判断に重要である。

ウ. テーピングは補助的手段であり、機能回復が再発予防の基本である。

エ. 機能低下が残れば再発リスクがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「疼痛が強くて貼れば競技可能である」に関する内容で、今回の「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「不安定性の評価は不要である」に関する内容で、今回の「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「テーピングがあれば筋力訓練は不要である」に関する内容で、今回の「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「テーピングだけに依存せず、筋力・可動域・バランスも回復させる」が適切である。根拠は、テーピングは補助的手段であり、機能回復が再発予防の基本である。

JS05-PDF-030

5-1 固定法 > テーピング 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：テーピング・テーピング後の効果判定を理解する】実習生が「全ての動きを完全に消失させたか」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 神経障害を起こしてはならない。

イ. 疼痛や圧迫障害は避ける。

ウ. 機能的支持では必要な動作を残すことがある。

エ. 支持効果と安全性の両方を確認する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「末梢感覚を消失させたか」に関する内容で、今回の誤判断「全ての動きを完全に消失させたか」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が出るほど強く貼れているか」に関する内容で、今回の誤判断「全ての動きを完全に消失させたか」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「全ての動きを完全に消失させたか」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「目的とした動作制限が得られ、必要な動作と循環が保たれているか」に関する内容で、今回の誤判断「全ての動きを完全に消失させたか」の理由ではない。

総合解説：「全ての動きを完全に消失させたか」は不適切である。理由は、機能的支持では必要な動作を残すことがある。この論点での適切な判断は「目的とした動作制限が得られ、必要な動作と循環が保たれているか」である。

JS05-PDF-031

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・温熱療法の基本作用を理解する】「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 一般に温熱は血流を増加させる方向に作用する。
- イ. 温熱により血管拡張や組織温上昇が生じ、疼痛緩和や伸張性改善に用いられる。
- ウ. 温熱は整復操作ではない。
- エ. 不可逆的神経遮断を目的としない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「局所血流を必ず完全停止させる」に関する内容で、今回の「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折を直ちに整復する」に関する内容で、今回の「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「神経伝導を永久に遮断する」に関する内容で、今回の「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「局所血流増加と軟部組織の伸張性向上」が適切である。根拠は、温熱により血管拡張や組織温上昇が生じ、疼痛緩和や伸張性改善に用いられる。

JS05-PDF-032

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・温熱療法と運動療法の併用目的を理解する】実習生が「関節を完全に不動にする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 温熱は補助的手段である。
- イ. 温熱後にストレッチや可動域運動を組み合わせることで機能改善を狙う。
- ウ. 拘縮改善には適切な運動が必要である。
- エ. 出血促進は目的ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「筋力訓練を永久に不要にする」に関する内容で、今回の誤判断「関節を完全に不動にする」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「軟部組織を温めて伸張しやすくし、運動療法を行いやすくする」に関する内容で、今回の誤判断「関節を完全に不動にする」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「関節を完全に不動にする」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「急性出血を増やす」に関する内容で、今回の誤判断「関節を完全に不動にする」の理由ではない。

総合解説：「関節を完全に不動にする」は不適切である。理由は、拘縮改善には適切な運動が必要である。この論点での適切な判断は「軟部組織を温めて伸張しやすくし、運動療法を行いやすくする」である。

JS05-PDF-033

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・急性炎症に対する温熱の注意点を理解する】「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 問題は急性炎症・出血の増悪である。
- イ. 急性炎症期には強い温熱が症状を悪化させることがある。
- ウ. 慢性期に用いられることがある。
- エ. 通常の温熱療法の説明ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「温熱で必ず骨癒合が停止するため」に関する内容で、今回の「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「温熱は慢性期にも絶対使用できないため」に関する内容で、今回の「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「温熱で全身麻痺になるため」に関する内容で、今回の「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「血流増加により腫脹や炎症反応を増悪させる可能性があるため」が適切である。根拠は、急性炎症期には強い温熱が症状を悪化させることがある。

JS05-PDF-034

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・温熱療法の熱傷予防を理解する】実習生が「感覚検査で骨折線が分かるから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折診断の検査ではない。
- イ. 目的が異なる。
- ウ. 温度感覚低下部位では過熱を検知できないことがある。
- エ. むしろ危険である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「感覚検査で骨折線が分かるから」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「感覚検査で筋力が必ず増えるから」に関する内容で、今回の誤判断「感覚検査で骨折線が分かるから」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「感覚低下があると熱さを自覚できず熱傷を起こす危険があるため」に関する内容で、今回の誤判断「感覚検査で骨折線が分かるから」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「感覚低下があるほど高温が安全だから」に関する内容で、今回の誤判断「感覚検査で骨折線が分かるから」の理由ではない。

総合解説：「感覚検査で骨折線が分かるから」は不適切である。理由は、骨折診断の検査ではない。この論点での適切な判断は「感覚低下があると熱さを自覚できず熱傷を起こす危険があるため」である。

JS05-PDF-035

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・循環障害時の温熱リスクを理解する】「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 代表的な危険性ではない。
- イ. 安全性が低下する。
- ウ. 説明にならない。
- エ. 循環不良部位では温度調節が不十分になりやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず筋力が急上昇するから」に関する内容で、今回の「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「循環障害があるほど熱傷しにくいから」に関する内容で、今回の「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「温熱で骨密度が即時に増えるから」に関する内容で、今回の「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「熱の放散が不十分となり組織障害を起こす可能性があるため」が適切である。根拠は、循環不良部位では温度調節が不十分になりやすい。

JS05-PDF-036

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・表在性温熱の安全管理を理解する】実習生が「感覚障害があっても観察不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. むしろ慎重な管理が必要である。
- イ. 過熱と熱傷を防ぐため温度・時間・皮膚状態を監視する。
- ウ. 安全域を超えてはならない。
- エ. 熱傷の危険が高い。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「感覚障害があっても観察不要である」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「十分な被覆材を用い、皮膚反応を定期的に確認する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても観察不要である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が強いほど温度を上げ続ける」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても観察不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚へ高温源を直接長時間当てる」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても観察不要である」の理由ではない。

総合解説：「感覚障害があっても観察不要である」は不適切である。理由は、むしろ慎重な管理が必要である。この論点での適切な判断は「十分な被覆材を用い、皮膚反応を定期的に確認する」である。

JS05-PDF-037

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・温熱療法中の異常に対応する】「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 組織障害の危険がある。
- イ. 熱傷の可能性がある、刺激を継続してはならない。
- ウ. 早期対応が必要である。
- エ. 熱傷を悪化させる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「治療効果が高い証拠として続ける」に関する内容で、今回の「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「皮膚を確認せず終了時まで待つ」に関する内容で、今回の「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「さらに温度を上げる」に関する内容で、今回の「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「直ちに中止し、皮膚状態を確認する」が適切である。根拠は、熱傷の可能性がある、刺激を継続してはならない。

JS05-PDF-038

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・温熱療法の効果判定を理解する】実習生が「施術後の状態は確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 目的に応じた機能変化と安全性を評価する。
- イ. 効果と安全性の評価が必要である。
- ウ. 治療効果判定にならない。
- エ. 機能改善や有害反応も確認する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛、可動域、筋緊張、皮膚反応を施術前後で比較する」に関する内容で、今回の誤判断「施術後の状態は確認しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「施術後の状態は確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「反対側の視力だけ測る」に関する内容で、今回の誤判断「施術後の状態は確認しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「温かく感じたかだけで全て判断する」に関する内容で、今回の誤判断「施術後の状態は確認しない」の理由ではない。

総合解説：「施術後の状態は確認しない」は不適切である。理由は、効果と安全性の評価が必要である。この論点での適切な判断は「疼痛、可動域、筋緊張、皮膚反応を施術前後で比較する」である。

JS05-PDF-039

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・温熱とストレッチの組み合わせを理解する】「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 組織損傷を起こし得る。
- イ. 目的に応じ運動を組み合わせる。
- ウ. 運動療法との組み合わせが重要である。
- エ. 温熱は伸張性を高める補助となるが、過度な伸張は避ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「温熱後は痛みを無視して最大伸張する」に関する内容で、今回の「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「温熱後は関節を全く動かさない」に関する内容で、今回の「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「温熱だけで拘縮が必ず完全に治る」に関する内容で、今回の「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「組織温上昇後に無理のない範囲で伸張する」が適切である。根拠は、温熱は伸張性を高める補助となるが、過度な伸張は避ける。

JS05-PDF-040

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・深部温熱療法の例を理解する】実習生が「弾性包帯」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 寒冷療法である。
- イ. 固定材料である。
- ウ. 治療用超音波は深部組織に温熱作用を与える目的で用いられることがある。
- エ. 圧迫・支持に用いる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単なる冷却材」に関する内容で、今回の誤判断「弾性包帯」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「副子」に関する内容で、今回の誤判断「弾性包帯」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「超音波療法」に関する内容で、今回の誤判断「弾性包帯」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「弾性包帯」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「弾性包帯」は不適切である。理由は、圧迫・支持に用いる。この論点での適切な判断は「超音波療法」である。

JS05-PDF-041

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・温熱療法の位置付けを理解する】「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 物理療法は運動療法を行いやすくする補助として用いられる。
- イ. 物理療法である。
- ウ. 血流や疼痛に影響する。
- エ. 機能回復には能動的訓練が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「温熱は固定法的一种だから」に関する内容で、今回の「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「温熱には生理作用が全くないから」に関する内容で、今回の「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「温熱を行えば全ての機能障害が自動的に治るから」に関する内容で、今回の「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛や組織柔軟性を改善しても、筋力や動作能力の再獲得には運動訓練が必要だから」が適切である。根拠は、物理療法は運動療法を行いやすくする補助として用いられる。

JS05-PDF-042

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・皮膚所見から温熱適否を判断する】実習生が「必ず長時間施行する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 状態に応じた判断が必要である。
- イ. 皮膚炎や急性炎症があれば温熱は不適切となることがある。
- ウ. 皮膚障害を悪化させる。
- エ. 安全性に直結する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず長時間施行する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「発赤の原因と炎症・皮膚損傷の有無を確認して適否を判断する」に関する内容で、今回の誤判断「必ず長時間施行する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「発赤があるほど高温にする」に関する内容で、今回の誤判断「必ず長時間施行する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚状態は温熱適応と無関係である」に関する内容で、今回の誤判断「必ず長時間施行する」の理由ではない。

総合解説：「必ず長時間施行する」は不適切である。理由は、状態に応じた判断が必要である。この論点での適切な判断は「発赤の原因と炎症・皮膚損傷の有無を確認して適否を判断する」である。

JS05-PDF-043

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：温熱・温熱療法中の患者観察を理解する】「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 患者の訴えは過熱や有害反応を早期発見する重要な情報である。

イ. 組織損傷の危険がある。

ウ. 安全確認が不足する。

エ. むしろ客観的観察を増やす必要がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「痛みが強くても我慢させる」に関する内容で、今回の「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「施術中は一切声をかけない」に関する内容で、今回の「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「感覚障害があるほど訴えを確認しない」に関する内容で、今回の「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「熱さ・痛み・違和感の変化を随時確認する」が適切である。根拠は、患者の訴えは過熱や有害反応を早期発見する重要な情報である。

JS05-PDF-044

5-2 物理療法 > 温熱 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：温熱・温熱と運動療法の臨床的連携を理解する】実習生が「運動療法を完全に代替する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 目的ではない。

イ. 整復法ではない。

ウ. 温熱は疼痛緩和や軟部組織伸張性向上を介して運動療法を補助する。

エ. 補助的役割である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「急性出血を促進することを目的とする」に関する内容で、今回の誤判断「運動療法を完全に代替する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折を徒手整復する」に関する内容で、今回の誤判断「運動療法を完全に代替する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛や筋緊張を軽減し、運動を行いやすくする」に関する内容で、今回の誤判断「運動療法を完全に代替する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「運動療法を完全に代替する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「運動療法を完全に代替する」は不適切である。理由は、補助的役割である。この論点での適切な判断は「疼痛や筋緊張を軽減し、運動を行いやすくする」である。

JS05-PDF-045

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の急性期目的を理解する】「疼痛と腫脹を抑える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 寒冷は代謝を低下させる方向に作用する。

イ. 主目的ではない。

ウ. 寒冷は神経伝導や代謝を低下させ、急性期の疼痛・腫脹管理に用いられる。

エ. 整復操作ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「局所代謝を最大限高める」に関する内容で、今回の「疼痛と腫脹を抑える」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「筋力を即時最大化する」に関する内容で、今回の「疼痛と腫脹を抑える」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛と腫脹を抑える」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨折を整復する」に関する内容で、今回の「疼痛と腫脹を抑える」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛と腫脹を抑える」が適切である。根拠は、寒冷は神経伝導や代謝を低下させ、急性期の疼痛・腫脹管理に用いられる。

JS05-PDF-046

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の基本生理作用を理解する】実習生が「持続的な著明血管拡張だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 寒冷の直接作用ではない。

イ. 初期反応は血管収縮である。

ウ. そうした作用ではない。

エ. 初期には局所血管収縮が起こり、血流が低下する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨癒合の即時完成」に関する内容で、今回の誤判断「持続的な著明血管拡張だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「持続的な著明血管拡張だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「関節可動域の永久増加」に関する内容で、今回の誤判断「持続的な著明血管拡張だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「血管収縮」に関する内容で、今回の誤判断「持続的な著明血管拡張だけ」の理由ではない。

総合解説：「持続的な著明血管拡張だけ」は不適切である。理由は、初期反応は血管収縮である。この論点での適切な判断は「血管収縮」である。

JS05-PDF-047

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の過冷却リスクを理解する】「凍傷や皮膚・末梢神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 過度な冷却は組織障害を起こす。

イ. 寒冷時間だけで決まらない。

ウ. 危険性の説明ではない。

エ. 局所寒冷療法の代表的合併症ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「凍傷や皮膚・末梢神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨折が必ず再転位する」に関する内容で、今回の「凍傷や皮膚・末梢神経障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず筋力が増強する」に関する内容で、今回の「凍傷や皮膚・末梢神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「視力が低下する」に関する内容で、今回の「凍傷や皮膚・末梢神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「凍傷や皮膚・末梢神経障害」が適切である。根拠は、過度な冷却は組織障害を起こす。

JS05-PDF-048

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の安全確認を理解する】実習生が「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 別の評価が必要である。

イ. 皮膚状態の確認が重要である。

ウ. 冷感や痛覚が低下していると凍傷リスクが高まる。

エ. むしろ危険である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「感覚検査で靱帯断裂が確定するため」に関する内容で、今回の誤判断「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「感覚低下部位では過冷却による組織障害に気付きにくい」という点に関する内容で、今回の誤判断「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「感覚低下があるほど安全に長時間冷却できる」という点に関する内容で、今回の誤判断「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」の理由ではない。

総合解説：「寒冷療法では皮膚評価が不要だから」は不適切である。理由は、皮膚状態の確認が重要である。この論点での適切な判断は「感覚低下部位では過冷却による組織障害に気付きにくい」という点である。

JS05-PDF-049

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：寒冷・循環障害時の寒冷リスクを理解する】「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 寒冷の作用と逆である。
- イ. 虚血悪化の可能性がある。
- ウ. 寒冷による血管収縮が虚血部位では危険となる。
- エ. 主な臨床上の危険ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「必ず温熱効果が生じるから」に関する内容で、今回の「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「循環障害があるほど寒冷が安全だから」に関する内容で、今回の「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨密度が下がるから」に関する内容で、今回の「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「さらに血流を低下させ組織虚血を悪化させる可能性があるため」が適切である。根拠は、寒冷による血管収縮が虚血部位では危険となる。

JS05-PDF-050

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の皮膚保護を理解する】実習生が「冷却効果を完全になくすため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 安全に冷却するためである。
- イ. 目的ではない。
- ウ. 皮膚保護が主目的である。
- エ. 適切な被覆と時間管理が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「冷却効果を完全になくすため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「筋力を低下させるため」に関する内容で、今回の誤判断「冷却効果を完全になくすため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折を予防するためだけ」に関する内容で、今回の誤判断「冷却効果を完全になくすため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「凍傷や皮膚障害を防ぐため」に関する内容で、今回の誤判断「冷却効果を完全になくすため」の理由ではない。

総合解説：「冷却効果を完全になくすため」は不適切である。理由は、安全に冷却するためである。この論点での適切な判断は「凍傷や皮膚障害を防ぐため」である。

JS05-PDF-051

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の中止基準を理解する】「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 過冷却による組織障害の可能性がある。

イ. 悪化させる。

ウ. 速やかな評価が必要である。

エ. 凍傷の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「さらに冷却時間を延長する」に関する内容で、今回の「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「翌日まで確認しない」に関する内容で、今回の「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「効果が高い証拠として継続する」に関する内容で、今回の「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「直ちに冷却を中止し、皮膚と循環状態を確認する」が適切である。根拠は、過冷却による組織障害の可能性がある。

JS05-PDF-052

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の適切な臨床利用を理解する】実習生が「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 再損傷の危険がある。

イ. 寒冷は補助療法であり、悪化原因の評価も必要である。

ウ. 症状増悪の原因評価が必要である。

エ. 過冷却となる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「冷却後すぐ最大負荷運動を行う」に関する内容で、今回の誤判断「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「症状を再評価したうえで、短時間の寒冷を疼痛・腫脹管理の一手段として用いる」に関する内容で、今回の誤判断「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「感覚が消えるまで冷却する」に関する内容で、今回の誤判断「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」の理由ではない。

総合解説：「寒冷だけで再損傷の有無を確認しなくてよい」は不適切である。理由は、症状増悪の原因評価が必要である。この論点での適切な判断は「症状を再評価したうえで、短時間の寒冷を疼痛・腫脹管理の一手段として用いる」である。

JS05-PDF-053

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：寒冷・寒冷後の運動リスクを理解する】「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 強い冷却直後は感覚・神経筋反応が変化し得るため安全に配慮する。

イ. 感覚・筋出力低下でリスクが増えることがある。

ウ. 反応低下を考慮する。

エ. 過度な冷却は機能に影響する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「寒冷後は転倒リスクが絶対にない」に関する内容で、今回の「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「冷却直後ほど最大速度運動が必ず安全である」に関する内容で、今回の「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「冷却時間は運動機能に影響しない」に関する内容で、今回の「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「感覚や筋出力が一時的に低下する可能性を考慮する」が適切である。根拠は、強い冷却直後は感覚・神経筋反応が変化し得るため安全に配慮する。

JS05-PDF-054

5-2 物理療法 > 寒冷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：寒冷・寒冷療法の効果判定を理解する】実習生が「冷たさを感じただけで判断する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 過冷却の評価が必要である。

イ. 目的効果と有害反応の両方を評価する。

ウ. 疼痛・腫脹や皮膚も評価する。

エ. 凍傷予防に重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「施術後の感覚を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「冷たさを感じただけで判断する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛・腫脹・皮膚状態・感覚を施術前後で比較する」に関する内容で、今回の誤判断「冷たさを感じただけで判断する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「冷たさを感じただけで判断する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「皮膚状態は確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「冷たさを感じただけで判断する」の理由ではない。

総合解説：「冷たさを感じただけで判断する」は不適切である。理由は、疼痛・腫脹や皮膚も評価する。この論点での適切な判断は「疼痛・腫脹・皮膚状態・感覚を施術前後で比較する」である。

JS05-PDF-055

5-2 物理療法 > 電気 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：電気・TENSの目的を理解する】「疼痛緩和」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 整復法ではない。
- イ. 固定材料ではない。
- ウ. TENSは皮膚上から末梢神経を電気刺激し、鎮痛を図る非薬物的手段である。
- エ. 不可逆の神経障害を目的としない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折を整復する」に関する内容で、今回の「疼痛緩和」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「関節を強固に固定する」に関する内容で、今回の「疼痛緩和」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛緩和」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「皮膚感覚を永久に消失させる」に関する内容で、今回の「疼痛緩和」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛緩和」が適切である。根拠は、TENSは皮膚上から末梢神経を電気刺激し、鎮痛を図る非薬物的手段である。

JS05-PDF-056

5-2 物理療法 > 電気 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：電気・神経筋電気刺激の目的を理解する】実習生が「骨折線を消失させる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 目的ではない。
- イ. 固定法ではない。
- ウ. 骨折治癒を即時に完成させない。
- エ. 適切な電気刺激は運動神経を刺激して筋収縮を誘発できる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を必ず遮断する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線を消失させる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「関節を完全固定する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線を消失させる」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨折線を消失させる」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「筋活動を補助し、筋萎縮予防や運動学習を支援する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線を消失させる」の理由ではない。

総合解説：「骨折線を消失させる」は不適切である。理由は、骨折治癒を即時に完成させない。この論点での適切な判断は「筋活動を補助し、筋萎縮予防や運動学習を支援する」である。

JS05-PDF-057

5-2 物理療法 > 電気 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：電気・電気刺激療法の皮膚安全管理を理解する】「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 皮膚障害を悪化させる。
- イ. 重要な安全確認項目である。
- ウ. 通常の目的ではない。
- エ. 皮膚損傷部では電流密度が不均一になり有害反応が起こり得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「発赤が強いほど高出力にするため」に関する内容で、今回の「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「皮膚状態は通電安全性に関係しないから」に関する内容で、今回の「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「電気刺激で皮膚創を閉鎖するため」に関する内容で、今回の「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」が適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「電極部の皮膚障害や刺激による熱傷・疼痛を予防するため」が適切である。根拠は、皮膚損傷部では電流密度が不均一になり有害反応が起こり得る。

JS05-PDF-058

5-2 物理療法 > 電気 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：電気・電気刺激と植込み型機器の注意を理解する】実習生が「確認せず胸部へ強く通電する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 逆である。
- イ. 電気刺激は体内埋込み型デバイスへ干渉する可能性があり慎重な判断が必要である。
- ウ. 重要な安全情報である。
- エ. 機器作動へ影響する危険がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「体内機器があるほど高出力が安全である」に関する内容で、今回の誤判断「確認せず胸部へ強く通電する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「機器への干渉リスクを確認し、禁忌・注意事項に従う」に関する内容で、今回の誤判断「確認せず胸部へ強く通電する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者申告は治療に無関係である」に関する内容で、今回の誤判断「確認せず胸部へ強く通電する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「確認せず胸部へ強く通電する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「確認せず胸部へ強く通電する」は不適切である。理由は、機器作動へ影響する危険がある。この論点での適切な判断は「機器への干渉リスクを確認し、禁忌・注意事項に従う」である。

JS05-PDF-059

5-2 物理療法 > 電気 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：電気・電極接触と安全性を理解する】「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 接触不良は局所電流密度を高め、疼痛・熱傷を起こすことがある。
- イ. 電流分布が重要である。
- ウ. 出力・電極位置なども関係する。
- エ. 接触不良となる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「皮膚を乾燥させることだけが目的だから」に関する内容で、今回の「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力を必ず最大化するから」に関する内容で、今回の「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「電極を浮かせた方が通電が均一だから」に関する内容で、今回の「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「電流を均一に流し、局所的な電流集中による皮膚刺激を減らすため」が適切である。根拠は、接触不良は局所電流密度を高め、疼痛・熱傷を起こすことがある。

JS05-PDF-060

5-2 物理療法 > 電気 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：電気・電気刺激療法の異常反応へ対応する】実習生が「皮膚は確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 有害反応評価が必要である。
- イ. 安全管理に反する。
- ウ. 皮膚障害の危険がある。
- エ. 異常な疼痛や灼熱感は接触不良や過刺激の可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「皮膚は確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「終了まで我慢させる」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚は確認しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「鎮痛効果が高い証拠として出力を上げる」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚は確認しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「刺激を中止し、電極・皮膚・設定を再確認する」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚は確認しない」の理由ではない。

総合解説：「皮膚は確認しない」は不適切である。理由は、有害反応評価が必要である。この論点での適切な判断は「刺激を中止し、電極・皮膚・設定を再確認する」である。

JS05-PDF-061

5-2 物理療法 > 電気 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：電気・電気刺激のパラメータ設定を理解する】「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 鎮痛と筋収縮では適切な設定が異なる。
- イ. 安全性と効果の確認が必要である。
- ウ. 適切なパラメータを選べない。
- エ. 目的と耐容性に合わせる必要がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「患者の反応を確認しない」に関する内容で、今回の「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「治療目的を決めずに通電する」に関する内容で、今回の「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「どの患者にも同じ最大出力を使用する」に関する内容で、今回の「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「目的、対象組織、患者の感覚、刺激強度・周波数などを総合する」が適切である。根拠は、鎮痛と筋収縮では適切な設定が異なる。

JS05-PDF-062

5-2 物理療法 > 電気 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：電気・電気刺激療法の臨床的役割を理解する】実習生が「評価なしで routine に使用する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 適応・禁忌・効果判定が必要である。
- イ. 補助的手段である。
- ウ. 電気刺激単独ではなく、目的に応じて能動的機能訓練と組み合わせる。
- エ. 併用が有用な場合がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「評価なしで routine に使用する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「電気刺激だけで全ての機能障害が治る」に関する内容で、今回の誤判断「評価なしで routine に使用する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛や筋機能への補助として用い、必要な運動療法と組み合わせる」に関する内容で、今回の誤判断「評価なしで routine に使用する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「運動療法とは同時に考えない」に関する内容で、今回の誤判断「評価なしで routine に使用する」の理由ではない。

総合解説：「評価なしで routine に使用する」は不適切である。理由は、適応・禁忌・効果判定が必要である。この論点での適切な判断は「疼痛や筋機能への補助として用い、必要な運動療法と組み合わせる」である。

JS05-PDF-063

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・関節可動域運動の目的を理解する】「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 整復操作とは異なる。

イ. 可動性回復が目的である。

ウ. 可動域運動は関節・軟部組織の柔軟性維持と機能回復に用いる。

エ. 組織損傷を招く可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折部を強制的に動かして整復する」に関する内容で、今回の「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「全関節を永久に固定する」に関する内容で、今回の「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「疼痛を無視して最大角度を出す」に関する内容で、今回の「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「拘縮を予防・改善し、必要な関節運動を回復する」が適切である。根拠は、可動域運動は関節・軟部組織の柔軟性維持と機能回復に用いる。

JS05-PDF-064

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・自動・他動可動域運動を区別する】実習生が「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 患者自身の筋活動で行う。

イ. 負荷量とは別の分類である。

ウ. 外力で関節を動かす。

エ. 運動主体の違いで分類される。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「自動運動は施術者だけが行う」に関する内容で、今回の誤判断「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「他動運動では関節を動かさない」に関する内容で、今回の誤判断「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「自動運動は患者自身の筋収縮で動かし、他動運動は外力で動かす」に関する内容で、今回の誤判断「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」の理由ではない。

総合解説：「自動運動は必ず無負荷で、他動運動は必ず最大負荷である」は不適切である。理由は、負荷量とは別の分類である。この論点での適切な判断は「自動運動は患者自身の筋収縮で動かし、他動運動は外力で動かす」である。

JS05-PDF-065

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・固定中の可動域維持を理解する】「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 機能維持が目的である。

イ. 骨折部を保護しながら安全な部位を動かすことで廃用を減らす。

ウ. 再転位を招く。

エ. 固定部を守りつつ周辺機能を維持する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛を増悪させることが目的である」に関する内容で、今回の「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折部へ最大剪断力を加える」に関する内容で、今回の「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「固定の意味をなくす」に関する内容で、今回の「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「拘縮・浮腫・筋萎縮を予防する」が適切である。根拠は、骨折部を保護しながら安全な部位を動かすことで廃用を減らす。

JS05-PDF-066

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・治癒段階に応じたROM運動を理解する】実習生が「筋力が必ず低下するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 問題は再損傷である。

イ. 主な危険は治癒組織への過負荷である。

ウ. 生理学的に不適切である。

エ. 治癒段階に合わない運動は骨折部や軟部組織へ過大な負荷を与える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「関節可動域が必ず増えすぎるため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が必ず低下するため」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「筋力が必ず低下するため」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「運動すると全身血流が停止するため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が必ず低下するため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「再転位や組織損傷を起こす可能性があるため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が必ず低下するため」の理由ではない。

総合解説：「筋力が必ず低下するため」は不適切である。理由は、主な危険は治癒組織への過負荷である。この論点での適切な判断は「再転位や組織損傷を起こす可能性があるため」である。

JS05-PDF-067

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・他動ROMの安全原則を理解する】「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 強制的な操作は炎症・損傷を悪化させ得る。
- イ. 組織損傷を招く。
- ウ. 疼痛は重要な安全情報である。
- エ. 禁忌となることがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「反動をつけて限界を超える」に関する内容で、今回の「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者の訴えを聞かない」に関する内容で、今回の「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「不安定骨折でも最大可動域を出す」に関する内容で、今回の「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛と組織抵抗を確認しながら無理のない範囲で行う」が適切である。根拠は、強制的な操作は炎症・損傷を悪化させ得る。

JS05-PDF-068

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・拘縮へのストレッチ原則を理解する】実習生が「痛みが強いほど効果が高い」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 炎症増悪の可能性がある。
- イ. 過大な力より安全に持続的伸張を加えることが重要である。
- ウ. 疼痛を伴う過大な伸張は防御性収縮や損傷を招く。
- エ. 急激な伸張は危険である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「炎症が強いほど強く伸ばす」に関する内容で、今回の誤判断「痛みが強いほど効果が高い」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「低～中等度の力で時間をかけ、組織反応をみながら行う」に関する内容で、今回の誤判断「痛みが強いほど効果が高い」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「痛みが強いほど効果が高い」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「反動を最大限利用する」に関する内容で、今回の誤判断「痛みが強いほど効果が高い」の理由ではない。

総合解説：「痛みが強いほど効果が高い」は不適切である。理由は、疼痛を伴う過大な伸張は防御性収縮や損傷を招く。この論点での適切な判断は「低～中等度の力で時間をかけ、組織反応をみながら行う」である。

JS05-PDF-069

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・ROM訓練の中止基準を理解する】「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 組織への過負荷や再損傷の可能性がある。

イ. 速やかな再評価が必要である。

ウ. 悪化させる可能性がある。

エ. 安全管理に反する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「翌週まで状態を確認しない」に関する内容で、今回の「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「可動域改善の証拠なので強度を上げる」に関する内容で、今回の「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛を無視して最後まで続ける」に関する内容で、今回の「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「運動を中止または軽減し、損傷状態を再評価する」が適切である。根拠は、組織への過負荷や再損傷の可能性がある。

JS05-PDF-070

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・ROM測定の意義を理解する】実習生が「骨折の有無を必ず確定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 単独では診断できない。

イ. 骨折診断には画像等が必要である。

ウ. 数値化により治療効果と機能変化を追跡できる。

エ. 可動域測定と筋力測定は別である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛の原因を全て特定する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折の有無を必ず確定する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折の有無を必ず確定する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「制限の程度を客観化し、経時的な改善や左右差を評価する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折の有無を必ず確定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「筋力を直接測定する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折の有無を必ず確定する」の理由ではない。

総合解説：「骨折の有無を必ず確定する」は不適切である。理由は、骨折診断には画像等が必要である。この論点での適切な判断は「制限の程度を客観化し、経時的な改善や左右差を評価する」である。

JS05-PDF-071

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・固定解除後のROM訓練を理解する】「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 治癒組織を保護しながら拘縮改善を図る。
- イ. 運動強度決定に重要である。
- ウ. 再損傷の危険がある。
- エ. 機能障害が残る可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨癒合状態を確認しない」に関する内容で、今回の「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「初回から最大強度の矯正を行う」に関する内容で、今回の「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「可動域制限は必ず放置する」に関する内容で、今回の「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨癒合・疼痛・腫脹を確認し、段階的に可動域訓練を進める」が適切である。根拠は、治癒組織を保護しながら拘縮改善を図る。

JS05-PDF-072

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・自動介助運動の適応を理解する】実習生が「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 運動補助を目的とする。
- イ. 患者の自動運動を外力で補助する。
- ウ. 安全性が優先される。
- エ. その場合は自動運動が中心となる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「完全に動かす必要がない場合」に関する内容で、今回の誤判断「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「自力だけでは全可動域を動かせないが、ある程度の筋収縮は可能な場合」に関する内容で、今回の誤判断「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「不安定骨折を強制的に動かす場合」に関する内容で、今回の誤判断「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「筋収縮が十分で全可動域を容易に動かせる場合のみ」は不適切である。理由は、その場合は自動運動が中心となる。この論点での適切な判断は「自力だけでは全可動域を動かせないが、ある程度の筋収縮は可能な場合」である。

JS05-PDF-073

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：可動域・物理療法とROM訓練の併用を理解する】「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 温熱を前処置として運動療法へつなげることがある。
- イ. 過度な伸張は危険である。
- ウ. 温熱は補助的手段である。
- エ. 併用されることがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「温熱後は組織が無制限に伸びるので最大力を加える」に関する内容で、今回の「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「可動域訓練が永久に不要になる」に関する内容で、今回の「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「温熱後は運動を行ってはいけない」に関する内容で、今回の「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛軽減や軟部組織伸張性向上を利用して運動しやすくする」が適切である。根拠は、温熱を前処置として運動療法へつなげることがある。

JS05-PDF-074

5-3 運動療法 > 可動域 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：可動域・ROMを機能的に評価する】実習生が「日常動作は可動域と無関係である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 左右差は参考となる。
- イ. 機能評価が必要である。
- ウ. 角度が増えても痛みや代償が強ければ十分な機能回復とはいえない。
- エ. 必要可動域は動作に依存する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「反対側との比較は一切不要である」に関する内容で、今回の誤判断「日常動作は可動域と無関係である」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「角度だけを見て他の所見は無視する」に関する内容で、今回の誤判断「日常動作は可動域と無関係である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛、動作の質、代償運動、日常生活への影響」に関する内容で、今回の誤判断「日常動作は可動域と無関係である」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「日常動作は可動域と無関係である」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「日常動作は可動域と無関係である」は不適切である。理由は、必要可動域は動作に依存する。この論点での適切な判断は「疼痛、動作の質、代償運動、日常生活への影響」である。

JS05-PDF-075

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：筋力・筋力増強の過負荷原則を理解する】「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 安全性を評価する必要がある。
- イ. 筋力向上には適切な負荷と漸増が必要である。
- ウ. 損傷や過労を招く。
- エ. 適応が進むと十分な刺激にならない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛が強いほど負荷を増やす」に関する内容で、今回の「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「初日から最大負荷だけを反復する」に関する内容で、今回の「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「常に同じ極軽負荷だけ続ける」に関する内容で、今回の「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「筋に適切な過負荷を与え、回復に応じて段階的に負荷を増やす」が適切である。根拠は、筋力向上には適切な負荷と漸増が必要である。

JS05-PDF-076

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：筋力・等尺性運動を理解する】実習生が「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 関節運動を伴わないことが特徴である。
- イ. 適切に用いれば固定期の筋活動維持にも使われる。
- ウ. 筋張力は発揮する。
- エ. 等尺性収縮では筋長変化や関節運動が小さい状態で力を出す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「必ず高速で関節を動かす」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「筋収縮を行わない」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「関節を大きく動かさず筋張力を発揮する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」の理由ではない。

総合解説：「骨折部へ必ず大きな剪断力を加える」は不適切である。理由は、適切に用いれば固定期の筋活動維持にも使われる。この論点での適切な判断は「関節を大きく動かさず筋張力を発揮する」である。

JS05-PDF-077

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：筋力・固定期の筋力維持を理解する】「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 筋張力を発揮する。
- イ. 治癒段階と疼痛を考慮する。
- ウ. 関節運動を抑えられることが利点である。
- エ. 損傷部を保護しつつ筋活動を維持できる場合がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「筋収縮を全く起こさない」に関する内容で、今回の「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「すべての損傷で無条件に最大収縮を行う」に関する内容で、今回の「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折部を大きく動かすことが目的である」に関する内容で、今回の「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「関節運動を抑えながら筋収縮を行える」が適切である。根拠は、損傷部を保護しつつ筋活動を維持できる場合がある。

JS05-PDF-078

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：筋力・筋力訓練の個別負荷設定を理解する】実習生が「治癒状況を確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 過負荷のサインとなる。
- イ. 個別化が必要である。
- ウ. 個々の状態に合わせて安全な負荷を設定する。
- エ. 組織強度に応じた負荷が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛や腫脹を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「治癒状況を確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「全患者に同じ重量を使う」に関する内容で、今回の誤判断「治癒状況を確認しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「損傷の治癒段階、筋力、疼痛、動作能力を考慮する」に関する内容で、今回の誤判断「治癒状況を確認しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「治癒状況を確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「治癒状況を確認しない」は不適切である。理由は、組織強度に応じた負荷が必要である。この論点での適切な判断は「損傷の治癒段階、筋力、疼痛、動作能力を考慮する」である。

JS05-PDF-079

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：筋力・筋力訓練の過負荷を認識する】「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 炎症や再損傷の可能性がある。
- イ. 再損傷を招く可能性がある。
- ウ. 負荷調整が必要である。
- エ. 症状増悪が持続する場合は運動量が組織許容量を超えた可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「治療状態とは無関係と考える」に関する内容で、今回の「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「必ず良いトレーニング反応なので負荷を増加する」に関する内容で、今回の「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「症状を無視して同量を続ける」に関する内容で、今回の「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「過負荷の可能性を考え、負荷量と運動内容を再評価する」が適切である。根拠は、症状増悪が持続する場合は運動量が組織許容量を超えた可能性がある。

JS05-PDF-080

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：筋力・筋力評価の左右比較を理解する】実習生が「骨折型を確定するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患側そのものの評価も必要である。
- イ. 健側は個人内の参考値となる。
- ウ. 筋力機能の比較が主目的である。
- エ. 筋力左右差だけでは骨折診断できない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「患側評価を不要にするため」に関する内容で、今回の誤判断「骨折型を確定するため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患側の筋力低下の程度と回復状況を把握する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折型を確定するため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛を測定するためだけ」に関する内容で、今回の誤判断「骨折型を確定するため」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「骨折型を確定するため」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「骨折型を確定するため」は不適切である。理由は、筋力左右差だけでは骨折診断できない。この論点での適切な判断は「患側の筋力低下の程度と回復状況を把握する」である。

JS05-PDF-081

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：筋力・筋力増強における回復を理解する】「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 過負荷・疲労を招く。
- イ. 刺激と回復のバランスが重要である。
- ウ. 過度な連続負荷は疲労・損傷を招く。
- エ. 適切な回復はトレーニングの一部である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「毎日最大負荷が常に最良だから」に関する内容で、今回の「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「筋力は運動量と無関係だから」に関する内容で、今回の「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「休息すると必ず筋力が消失するから」に関する内容で、今回の「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「筋・腱などが刺激から回復し適応する時間が必要だから」が適切である。根拠は、過度な連続負荷は疲労・損傷を招く。

JS05-PDF-082

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：筋力・筋力訓練の段階的進行を理解する】実習生が「単関節運動だけを永久に続ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 日常・競技動作へつなげる必要がある。
- イ. 進行判断に重要である。
- ウ. 再損傷リスクが高い。
- エ. 基礎筋力から機能的筋力へ進める。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「単関節運動だけを永久に続ける」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「荷重能力を評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「単関節運動だけを永久に続ける」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「治癒前からいきなり最大ジャンプを行う」に関する内容で、今回の誤判断「単関節運動だけを永久に続ける」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「治癒と筋力の回復に合わせて実際の動作に近い負荷へ段階的に移行する」に関する内容で、今回の誤判断「単関節運動だけを永久に続ける」の理由ではない。

総合解説：「単関節運動だけを永久に続ける」は不適切である。理由は、日常・競技動作へつなげる必要がある。この論点での適切な判断は「治癒と筋力の回復に合わせて実際の動作に近い負荷へ段階的に移行する」である。

JS05-PDF-083

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：筋力・筋力訓練の動作品質を理解する】「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。
ア. 動作品質が低下している。

イ. 過大負荷では他筋や体幹で代償し、目的筋への刺激が不十分になる。

ウ. 負荷と損傷状態を再評価する。

エ. 適切な運動学習と安全性に重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「代償が大きいほど良いので負荷を増やす」に関する内容で、今回の「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛があっても代償で続ける」に関する内容で、今回の「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「フォームは筋力訓練に関係しない」に関する内容で、今回の「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「負荷を見直し、正しい動作で行える範囲に調整する」が適切である。根拠は、過大負荷では他筋や体幹で代償し、目的筋への刺激が不十分になる。

JS05-PDF-084

5-3 運動療法 > 筋力 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：筋力・競技復帰時の筋力評価を理解する】実習生が「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 機能力を評価する必要がある。

イ. 左右差は重要な参考となる。

ウ. 競技では瞬発力や反復能力、動作制御も必要である。

エ. 機能低下を補えない場合がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「安静時痛だけで復帰を決める」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「健側との比較は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「単純筋力だけでなく、左右差・持久力・競技動作中の力発揮も評価する」に関する内容で、今回の誤判断「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「筋力が弱くてもテーピングだけで全力復帰する」は不適切である。理由は、機能低下を補えない場合がある。この論点での適切な判断は「単純筋力だけでなく、左右差・持久力・競技動作中の力発揮も評価する」である。

JS05-PDF-085

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：機能訓練・機能訓練の目的を理解する】「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 機能回復が目的である。

イ. 単一の可動域や筋力ではなく実際の生活機能へつなげる。

ウ. 生活背景に合わせて個別化する。

エ. 機能的ゴールが重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定を永久に続ける」に関する内容で、今回の「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「全ての患者に同じ動作を行わせる」に関する内容で、今回の「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「検査数値だけを改善し生活動作は考えない」に関する内容で、今回の「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「日常生活・仕事・スポーツなど必要な動作能力を再獲得する」が適切である。根拠は、単一の可動域や筋力ではなく実際の生活機能へつなげる。

JS05-PDF-086

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：機能訓練・歩行訓練開始条件を理解する】実習生が「骨癒合状態を確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 安全な歩行には複数の機能要素が必要である。

イ. 再損傷の危険がある。

ウ. 荷重制限の判断に重要である。

エ. 安全な訓練に必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「荷重許容量、疼痛、関節可動域、筋力、バランスを確認する」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合状態を確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が強くても全荷重歩行を強制する」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合状態を確認しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨癒合状態を確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「転倒リスクを評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合状態を確認しない」の理由ではない。

総合解説：「骨癒合状態を確認しない」は不適切である。理由は、荷重制限の判断に重要である。この論点での適切な判断は「荷重許容量、疼痛、関節可動域、筋力、バランスを確認する」である。

JS05-PDF-087

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：機能訓練・上肢機能訓練の課題特異性を理解する】「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 機能訓練は具体的な生活課題へつなげる。

イ. 生活目標に合わせる。

ウ. 負荷調整が必要である。

エ. 動作能力の再獲得が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「全ての患者に投球だけを行わせる」に関する内容で、今回の「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛みや疲労を評価しない」に関する内容で、今回の「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「関節角度だけ測って訓練を終了する」に関する内容で、今回の「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「把持、持ち上げ、衣服操作など実生活に必要な課題を段階的に練習する」が適切である。根拠は、機能訓練は具体的な生活課題へつなげる。

JS05-PDF-088

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：機能訓練・足関節捻挫後のバランス訓練を理解する】実習生が「筋力訓練を完全に不要にするため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 組織治癒には時間を要する。

イ. 足関節不安定症では神経筋制御の回復が重要である。

ウ. 複合的な機能回復が必要である。

エ. 段階的に行う。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「靱帯を必ず一日で再生させるため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力訓練を完全に不要にするため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「固有感覚と姿勢制御を改善し、再受傷リスクを減らすため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力訓練を完全に不要にするため」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「筋力訓練を完全に不要にするため」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「疼痛を無視して不安定面だけ行うため」に関する内容で、今回の誤判断「筋力訓練を完全に不要にするため」の理由ではない。

総合解説：「筋力訓練を完全に不要にするため」は不適切である。理由は、複合的な機能回復が必要である。この論点での適切な判断は「固有感覚と姿勢制御を改善し、再受傷リスクを減らすため」である。

JS05-PDF-089

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：機能訓練・機能訓練の段階付けを理解する】「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 失敗・再損傷リスクが高い。
- イ. 機能訓練は目標指向である。
- ウ. 動作品質を優先する。
- エ. 段階的な課題設定で安全に応用動作へ進む。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「最初から最難度課題を行う」に関する内容で、今回の「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「患者の目標を考慮しない」に関する内容で、今回の「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「基本動作が不安定でも負荷だけ増やす」に関する内容で、今回の「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「基本動作が安定して行えることを確認してから速度・負荷・複雑性を増やす」が適切である。根拠は、段階的な課題設定で安全に応用動作へ進む。

JS05-PDF-090

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：機能訓練・競技特異的機能訓練を理解する】実習生が「疲労時のフォームを確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 競技負荷は日常歩行より高い。
- イ. 復帰判断に重要である。
- ウ. 実戦では疲労下の制御も重要である。
- エ. 基礎機能から競技に必要な速度・反応・負荷へ進める。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「歩行可能になれば即試合に戻す」に関する内容で、今回の誤判断「疲労時のフォームを確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「競技特異的動作を評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「疲労時のフォームを確認しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「疲労時のフォームを確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「ジョギング、方向転換、ジャンプなど競技特異的動作を段階的に追加する」に関する内容で、今回の誤判断「疲労時のフォームを確認しない」の理由ではない。

総合解説：「疲労時のフォームを確認しない」は不適切である。理由は、実戦では疲労下の制御も重要である。この論点での適切な判断は「ジョギング、方向転換、ジャンプなど競技特異的動作を段階的に追加する」である。

JS05-PDF-091

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：機能訓練・機能訓練を生活場面へ一般化する】「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 実生活の転倒リスクが残っている。
- イ. 生活環境を含む評価が必要である。
- ウ. 環境・認知・バランスなど多面的評価が必要である。
- エ. 訓練室の能力と生活場面の機能は一致しないことがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「訓練室で歩けるため問題なしとする」に関する内容で、今回の「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「自宅環境は機能訓練と無関係とする」に関する内容で、今回の「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力だけ測って終了する」に関する内容で、今回の「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「生活環境と実際の動作条件を評価し、環境に即した課題を練習する」が適切である。根拠は、訓練室の能力と生活場面の機能は一致しないことがある。

JS05-PDF-092

5-3 運動療法 > 機能訓練 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：機能訓練・機能訓練の多面的効果判定を理解する】実習生が「訓練前後を比較しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 治療効果を客観的に確認する必要がある。
- イ. 目標指向の評価が重要である。
- ウ. 実際の動作能力が必要である。
- エ. 機能回復は身体機能だけでなく活動・参加レベルで評価する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「訓練前後を比較しない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「患者の目標は評価に含めない」に関する内容で、今回の誤判断「訓練前後を比較しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力値だけで全て判断する」に関する内容で、今回の誤判断「訓練前後を比較しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「可動域・筋力に加え、実際の動作達成度と患者目標への到達を評価する」に関する内容で、今回の誤判断「訓練前後を比較しない」の理由ではない。

総合解説：「訓練前後を比較しない」は不適切である。理由は、治療効果を客観的に確認する必要がある。この論点での適切な判断は「可動域・筋力に加え、実際の動作達成度と患者目標への到達を評価する」である。

JS05-PDF-093

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：記録・施術録の目的を理解する】「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 記録は経過を客観的に残すためのものである。

イ. 負傷原因は療養費取扱いでも重要な情報である。

ウ. 記録を残す意義と逆である。

エ. 施術録は負傷状況、所見、施術内容、経過などを記録し、継続的な判断の根拠となる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「施術内容を後から自由に変更するため」に関する内容で、今回の「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「負傷原因を記載しないため」に関する内容で、今回の「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者の記憶だけに頼るため」に関する内容で、今回の「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「施術内容と経過を継続的に把握し、適切な施術・説明・連携に役立てる」が適切である。根拠は、施術録は負傷状況、所見、施術内容、経過などを記録し、継続的な判断の根拠となる。

JS05-PDF-094

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：記録・施術録を適時記載する重要性を理解する】実習生が「数か月分をまとめて思い出して記載する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 施術の都度の経過を適切に残す必要がある。

イ. 施術録は施術内容や経過を遅滞なく記載し、後日の記憶だけに依存しないことが重要である。

ウ. 継続的な記録が必要である。

エ. 正確性が低下し、適切な記録管理とはいえない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「請求時だけ記載すればよい」に関する内容で、今回の誤判断「数か月分をまとめて思い出して記載する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「施術後、遅滞なく記載する」に関する内容で、今回の誤判断「数か月分をまとめて思い出して記載する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者から問い合わせがあった時だけ記載する」に関する内容で、今回の誤判断「数か月分をまとめて思い出して記載する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「数か月分をまとめて思い出して記載する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「数か月分をまとめて思い出して記載する」は不適切である。理由は、正確性が低下し、適切な記録管理とはいえない。この論点での適切な判断は「施術後、遅滞なく記載する」である。

JS05-PDF-095

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：記録・施術録の保存期間を理解する】「施術が完結した日から5年間」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 受領委任に係る施術録は施術完結日から5年間保存する取扱いである。

イ. 保存期間の基準が異なる。

ウ. 受領委任に係る施術録には保存義務がある。

エ. 5年間保存が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「施術が完結した日から5年間」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「施術開始日から1年間」に関する内容で、今回の「施術が完結した日から5年間」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「保存義務はない」に関する内容で、今回の「施術が完結した日から5年間」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「施術完結日から2年間」に関する内容で、今回の「施術が完結した日から5年間」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「施術が完結した日から5年間」が適切である。根拠は、受領委任に係る施術録は施術完結日から5年間保存する取扱いである。

JS05-PDF-096

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：記録・医師同意の記録を理解する】実習生が「同意を得ても記録する必要はない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 医師同意の有無は別に記録する。

イ. 骨折・脱臼に対する施術で医師の同意を得た場合は、その旨を施術録に記載する。

ウ. 療養費の取扱い上、同意を得た旨の記載が必要である。

エ. 同意を得た事実も重要な記録事項である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「患者の署名だけで医師同意の記録に代える」に関する内容で、今回の誤判断「同意を得ても記録する必要はない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「医師の同意を得た旨を記載する」に関する内容で、今回の誤判断「同意を得ても記録する必要はない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「同意を得ても記録する必要はない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「負傷名のみ記載すれば足りる」に関する内容で、今回の誤判断「同意を得ても記録する必要はない」の理由ではない。

総合解説：「同意を得ても記録する必要はない」は不適切である。理由は、療養費の取扱い上、同意を得た旨の記載が必要である。この論点での適切な判断は「医師の同意を得た旨を記載する」である。

JS05-PDF-097

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：記録・施術経過を時系列で記録する】「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 悪化所見も重要な臨床情報である。
- イ. 実際の所見と施術内容を具体的に残すべきである。
- ウ. 何を行ったかは経過評価に必要である。
- エ. 客観的・主観的な経過と施術内容を対応づけて記録すると、判断の継続性が高まる。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。この説明は「改善した内容だけ記載し悪化は記載しない」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」の根拠ではない。
 - イ：誤り。この説明は「毎回『変化なし』だけを機械的に記載する」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」の根拠ではない。
 - ウ：誤り。この説明は「施術内容を一切記載しない」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」の根拠ではない。
 - エ：正しい。この説明が「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」を適切とする根拠に直接対応する。
- 総合解説：この論点では「疼痛・腫脹・可動域・機能などの変化と施術内容を時系列で残す」が適切である。根拠は、客観的・主観的な経過と施術内容を対応づけて記録すると、判断の継続性が高まる。

JS05-PDF-098

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：記録・施術録訂正の基本を理解する】実習生が「不都合な記載は削除する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 記録改変と区別できなくなる。
- イ. 記録の真正性を保つため、後から見ても変更経過が追えることが重要である。
- ウ. 誤記は適切な方法で訂正する。
- エ. 臨床経過を正確に残すことが重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。この説明は「誤記があれば元の記載を完全に消して痕跡を残さない」に関する内容で、今回の誤判断「不都合な記載は削除する」の理由ではない。
 - イ：誤り。この説明は「訂正前の内容が追えるようにし、訂正日時や内容が分かる形で修正する」に関する内容で、今回の誤判断「不都合な記載は削除する」の理由ではない。
 - ウ：誤り。この説明は「訂正は一切してはならない」に関する内容で、今回の誤判断「不都合な記載は削除する」の理由ではない。
 - エ：正しい。この説明が「不都合な記載は削除する」が不適切である理由に直接対応する。
- 総合解説：「不都合な記載は削除する」は不適切である。理由は、臨床経過を正確に残すことが重要である。この論点での適切な判断は「訂正前の内容が追えるようにし、訂正日時や内容が分かる形で修正する」である。

JS05-PDF-099

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：記録・紹介判断を施術録へ反映する】「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 施術録は保存する必要がある。
- イ. 重要な経過であり記録すべきである。
- ウ. 臨床判断の根拠を残す必要がある。
- エ. 紹介判断の根拠と患者への説明を残すことで継続的な安全管理につながる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「紹介後はそれまでの経過記録を破棄する」に関する内容で、今回の「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「紹介した事実は記録しない」に関する内容で、今回の「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「紹介理由は患者にだけ伝え記録しない」に関する内容で、今回の「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「紹介を判断した理由、所見、紹介先や説明内容を記録する」が適切である。根拠は、紹介判断の根拠と患者への説明を残すことで継続的な安全管理につながる。

JS05-PDF-100

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：記録・施術録の個人情報管理を理解する】実習生が「患者情報を私的SNSへ掲載する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 施術録には個人情報が含まれるため、適切なアクセス管理と守秘が必要である。
- イ. 個人情報保護上不適切である。
- ウ. 紛失・漏えい防止が必要である。
- エ. 本人の権利を侵害する可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必要な情報を適切に管理し、第三者へ不用意に開示しない」に関する内容で、今回の誤判断「患者情報を私的SNSへ掲載する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「待合室で誰でも閲覧できるようにする」に関する内容で、今回の誤判断「患者情報を私的SNSへ掲載する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「施術所外へ無制限に持ち出す」に関する内容で、今回の誤判断「患者情報を私的SNSへ掲載する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「患者情報を私的SNSへ掲載する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「患者情報を私的SNSへ掲載する」は不適切である。理由は、本人の権利を侵害する可能性がある。この論点での適切な判断は「必要な情報を適切に管理し、第三者へ不用意に開示しない」である。

JS05-PDF-101

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：記録・記録と医科連携の関係を理解する】「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 時系列の情報が整理されていれば、紹介先が経過を把握しやすい。
- イ. 症状・所見は重要な連携情報である。
- ウ. 施術録は医師の診察を代替するものではない。
- エ. 必要な検査は医療機関で行う。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「患者の症状を記録せずに済む」に関する内容で、今回の「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「医師の診察を不要にできる」に関する内容で、今回の「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像検査の結果を推測だけで確定できる」に関する内容で、今回の「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「受傷機転、所見、施術内容、経過を整理して医療機関へ伝えられる」が適切である。根拠は、時系列の情報が整理されていれば、紹介先が経過を把握しやすい。

JS05-PDF-102

5-4 施術所実務 > 記録 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：記録・経過不良時の記録を理解する】実習生が「再評価を行わず記録だけ増やす」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 安全管理を損なう。
- イ. 経過不良時は診断再検討や医科連携の根拠となる情報を明確に記録する。
- ウ. 臨床判断と記録の両方が必要である。
- エ. 経時変化が分からなくなる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「悪化所見を省略して改善したように記録する」に関する内容で、今回の誤判断「再評価を行わず記録だけ増やす」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「悪化した所見、再評価内容、紹介判断などを具体的に残す」に関する内容で、今回の誤判断「再評価を行わず記録だけ増やす」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「再評価を行わず記録だけ増やす」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「以前の記録を全て同じ内容に書き換える」に関する内容で、今回の誤判断「再評価を行わず記録だけ増やす」の理由ではない。

総合解説：「再評価を行わず記録だけ増やす」は不適切である。理由は、臨床判断と記録の両方が必要である。この論点での適切な判断は「悪化した所見、再評価内容、紹介判断などを具体的に残す」である。

JS05-PDF-103

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：保険取扱・療養費の支給対象を理解する】「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 療養費の対象とはならない。
- イ. 単なる肩こりは療養費の支給対象外である。
- ウ. 療養費の対象は外傷性の負傷が基本である。
- エ. 内科的原因による疾患は対象外である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「疲労回復だけを目的としたマッサージ」に関する内容で、今回の「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「単なる慢性肩こり」に関する内容で、今回の「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「内科的原因による浮腫」に関する内容で、今回の「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「急性または亜急性の外傷性の骨折・脱臼・打撲・捻挫など」が適切である。根拠は、療養費の対象は外傷性の負傷が基本である。

JS05-PDF-104

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：保険取扱・療養費対象外となる症状を理解する】実習生が「全て骨折として請求できる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 単なる肩こり・筋肉疲労は柔道整復療養費の対象外である。
- イ. 負傷の性質が重要である。
- ウ. 負傷実態に基づかない請求は不適切である。
- エ. 支給要件を満たす必要がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「支給対象外である」に関する内容で、今回の誤判断「全て骨折として請求できる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「施術期間が長ければ自動的に支給対象となる」に関する内容で、今回の誤判断「全て骨折として請求できる」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「全て骨折として請求できる」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患者が希望すれば必ず支給対象になる」に関する内容で、今回の誤判断「全て骨折として請求できる」の理由ではない。

総合解説：「全て骨折として請求できる」は不適切である。理由は、負傷実態に基づかない請求は不適切である。この論点での適切な判断は「支給対象外である」である。

JS05-PDF-105

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：保険取扱・骨折・脱臼の医師同意を理解する】「患者を診察した医師の同意」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 医師同意が必要な取扱いである。
- イ. 医師の同意が必要である。
- ウ. 応急手当を除いて必要である。
- エ. 骨折・脱臼に対する施術は、応急手当を除き原則として医師の同意が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「患者本人の希望だけ」に関する内容で、今回の「患者を診察した医師の同意」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「施術所内の口頭合意だけ」に関する内容で、今回の「患者を診察した医師の同意」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「同意は一切不要」に関する内容で、今回の「患者を診察した医師の同意」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「患者を診察した医師の同意」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「患者を診察した医師の同意」が適切である。根拠は、骨折・脱臼に対する施術は、応急手当を除き原則として医師の同意が必要である。

JS05-PDF-106

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：保険取扱・医師同意の要件を理解する】実習生が「整形外科医からしか得られない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 同意を得た旨を施術録に記載する。
- イ. 同意を求める医師は必ずしも整形外科等に限られない。
- ウ. 医師の同意は患者を診察した上で書面または口頭により与えられる。
- エ. 患者を診察した上での同意が前提である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「施術録への記載は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「整形外科医からしか得られない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「整形外科医からしか得られない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「患者を診察した上で、書面または口頭で与えられることがある」に関する内容で、今回の誤判断「整形外科医からしか得られない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「診察せず電話だけで必ず成立する」に関する内容で、今回の誤判断「整形外科医からしか得られない」の理由ではない。

総合解説：「整形外科医からしか得られない」は不適切である。理由は、同意を求める医師は必ずしも整形外科等に限られない。この論点での適切な判断は「患者を診察した上で、書面または口頭で与えられることがある」である。

JS05-PDF-107

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：保険取扱・医療機関処置後の算定を理解する】「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 算定判断に関係する。
- イ. 条件により初検料・後療料等で算定する。
- ウ. 重複算定はしない。
- エ. 医師が整復または固定を行っている場合、当該整復料・固定料は算定しない取扱いである。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「医師の処置内容は確認不要である」に関する内容で、今回の「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「後療料等も全て算定できない」に関する内容で、今回の「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「同じ整復料を必ず二重に算定する」に関する内容で、今回の「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「柔道整復師は当該整復料・固定料を重ねて算定しない」が適切である。根拠は、医師が整復または固定を行っている場合、当該整復料・固定料は算定しない取扱いである。

JS05-PDF-108

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：保険取扱・受領委任制度の基本を理解する】実習生が「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 受領委任では患者が給付の受領を施術者へ委任し、現物給付に近い形で取扱う。
- イ. 申請内容の確認と委任が必要である。
- ウ. 制度の意味が異なる。
- エ. 受領委任の説明ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「患者が一部負担金相当額を支払い、施術者が保険者へ残額を請求する仕組み」に関する内容で、今回の誤判断「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「施術者が患者へ保険料を支払う制度である」に関する内容で、今回の誤判断「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「患者は必ず全額を自費で負担し保険請求はしない」に関する内容で、今回の誤判断「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」の理由ではない。

総合解説：「患者の確認なしで施術者が自由に請求する」は不適切である。理由は、申請内容の確認と委任が必要である。この論点での適切な判断は「患者が一部負担金相当額を支払い、施術者が保険者へ残額を請求する仕組み」である。

JS05-PDF-109

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：保険取扱・申請書署名の趣旨を理解する】「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 署名は内容確認と受領委任の意思表示に関係する。
- イ. 申請内容を確認することが重要である。
- ウ. 申請内容の確認に関係する。
- エ. 適正な受領委任手続ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「白紙のまま内容を確認せず署名する」に関する内容で、今回の「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「署名は負傷内容と無関係である」に関する内容で、今回の「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「施術者が患者に無断で署名する」に関する内容で、今回の「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「申請内容を確認し、給付の受領を施術者へ委任する趣旨を理解して署名する」が適切である。根拠は、署名は内容確認と受領委任の意思表示に関係する。

JS05-PDF-110

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：保険取扱・外傷性負傷と内科的疾患を区別する】実習生が「医科受診を避ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 内科的原因が疑われる場合は医療機関での評価が必要である。
- イ. 負傷実態に基づく必要がある。
- ウ. 適切な鑑別が必要である。
- エ. 療養費対象は外傷性負傷であり、内科的原因による疾患は含まれない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「医科受診を避ける」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「外傷歴がなくても捻挫として請求する」に関する内容で、今回の誤判断「医科受診を避ける」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「原因不明なら全て打撲として扱う」に関する内容で、今回の誤判断「医科受診を避ける」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「柔道整復療養費の対象外として医科受診を検討する」に関する内容で、今回の誤判断「医科受診を避ける」の理由ではない。

総合解説：「医科受診を避ける」は不適切である。理由は、内科的原因が疑われる場合は医療機関での評価が必要である。この論点での適切な判断は「柔道整復療養費の対象外として医科受診を検討する」である。

JS05-PDF-111

5-4 施術所実務 > 保険取扱 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：保険取扱・療養費の適正請求を理解する】「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 実態と異なる請求は不適切である。
- イ. 客観的な負傷評価に基づく。
- ウ. 請求は実際の施術と負傷内容を正確に反映する必要がある。
- エ. 実際の施術事実に基づく必要がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「請求額を増やすため負傷部位を追加する」に関する内容で、今回の「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「患者が希望する負傷名に変更する」に関する内容で、今回の「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「施術していない日も請求する」に関する内容で、今回の「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「実際の負傷原因・負傷部位・施術内容に基づき適正に請求する」が適切である。根拠は、請求は実際の施術と負傷内容を正確に反映する必要がある。

JS05-PDF-112

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：紹介判断・開放骨折の紹介判断を理解する】実習生が「骨片を何度も創内へ押し戻す」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 汚染や組織損傷を悪化させる。
- イ. 開放骨折の有無が重要である。
- ウ. 感染や骨髓炎の危険がある。
- エ. 開放骨折は感染リスクが高く、専門的な創処置・抗菌薬・手術等が必要となることがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨片を何度も創内へ押し戻す」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「歩行可能なら紹介不要とする」に関する内容で、今回の誤判断「骨片を何度も創内へ押し戻す」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「創を閉じて通常の捻挫として経過を見る」に関する内容で、今回の誤判断「骨片を何度も創内へ押し戻す」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「開放骨折を疑い、速やかに医療機関へ紹介する」に関する内容で、今回の誤判断「骨片を何度も創内へ押し戻す」の理由ではない。

総合解説：「骨片を何度も創内へ押し戻す」は不適切である。理由は、汚染や組織損傷を悪化させる。この論点での適切な判断は「開放骨折を疑い、速やかに医療機関へ紹介する」である。

JS05-PDF-113

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：紹介判断・血管障害の紹介判断を理解する】「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 緊急性が高い。
- イ. 四肢虚血の危険がある。
- ウ. 末梢冷感や脈拍低下は血流障害を示唆し、緊急評価が必要である。
- エ. 血流障害を悪化させる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「翌週まで再評価しない」に関する内容で、今回の「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「通常の筋肉痛として経過を見る」に関する内容で、今回の「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「さらに強く固定を締める」に関する内容で、今回の「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「血管損傷を疑い緊急に医療機関へ紹介する」が適切である。根拠は、末梢冷感や脈拍低下は血流障害を示唆し、緊急評価が必要である。

JS05-PDF-114

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：紹介判断・コンパートメント症候群を見逃さない】実習生が「筋肉痛として強くマッサージする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 緊急評価が必要である。
- イ. 虚血性障害を悪化させる可能性がある。
- ウ. 末期所見を待ってはならない。
- エ. 増悪する疼痛や他動伸展痛、感覚異常は区画内圧上昇の警告所見である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「運動負荷を増やす」に関する内容で、今回の誤判断「筋肉痛として強くマッサージする」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「筋肉痛として強くマッサージする」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「冷感が出るまで経過を見る」に関する内容で、今回の誤判断「筋肉痛として強くマッサージする」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「コンパートメント症候群を疑い緊急紹介する」に関する内容で、今回の誤判断「筋肉痛として強くマッサージする」の理由ではない。

総合解説：「筋肉痛として強くマッサージする」は不適切である。理由は、虚血性障害を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「コンパートメント症候群を疑い緊急紹介する」である。

JS05-PDF-115

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：紹介判断・頸髄損傷の紹介判断を理解する】「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経症状を伴う外傷であり緊急評価が必要である。
- イ. 頸髄損傷では四肢の運動・知覚障害を生じ、脊柱を動かさない対応が重要である。
- ウ. 脊髄損傷の疑いがある。
- エ. 二次損傷を悪化させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩こりとして温熱のみ行う」に関する内容で、今回の「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「歩けるか試すため起立させる」に関する内容で、今回の「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「可動域確認のため頸部を強く屈伸する」に関する内容で、今回の「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「頸髄損傷を疑い、頸部を保護して医療機関へ搬送する」が適切である。根拠は、頸髄損傷では四肢の運動・知覚障害を生じ、脊柱を動かさない対応が重要である。

JS05-PDF-116

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：紹介判断・非外傷性のレッドフラッグを判断する】実習生が「全て捻挫として施術を続ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染・急性炎症を悪化させる可能性がある。
- イ. 内科的・感染性疾患を見逃す可能性がある。
- ウ. 全身症状は医科的評価が必要である。
- エ. 外傷性負傷とは異なる可能性があり、感染などの除外が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「赤みが強いほど温熱を長時間行う」に関する内容で、今回の誤判断「全て捻挫として施術を続ける」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「全て捻挫として施術を続ける」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「発熱は運動不足と判断する」に関する内容で、今回の誤判断「全て捻挫として施術を続ける」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「感染性疾患などを疑い医療機関での評価を優先する」に関する内容で、今回の誤判断「全て捻挫として施術を続ける」の理由ではない。

総合解説：「全て捻挫として施術を続ける」は不適切である。理由は、内科的・感染性疾患を見逃す可能性がある。この論点での適切な判断は「感染性疾患などを疑い医療機関での評価を優先する」である。

JS05-PDF-117

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：紹介判断・経過不良時の紹介判断を理解する】「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 経過変化は重要な情報である。
- イ. 経過不良は見逃し骨折や感染、重度損傷などを再検討するサインである。
- ウ. 臨床判断と記録の両面で不適切である。
- エ. 再評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「患者の訴えを無視する」に関する内容で、今回の「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「記録だけ変更して改善したことにする」に関する内容で、今回の「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「同じ施術を無条件に続ける」に関する内容で、今回の「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「診断・施術方針を再評価し、必要なら医療機関へ紹介する」が適切である。根拠は、経過不良は見逃し骨折や感染、重度損傷などを再検討するサインである。

JS05-PDF-118

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：紹介判断・頭部外傷の緊急紹介を理解する】実習生が「帰宅させ一人で経過をみてもらう」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 危険である。
- イ. 意識障害や反復嘔吐は頭部外傷の重大な警告所見となる。
- ウ. 頭蓋内損傷の可能性がある。
- エ. 緊急評価が必要な所見である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「強い運動をさせ反応を見る」に関する内容で、今回の誤判断「帰宅させ一人で経過をみてもらう」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「頭蓋内損傷を疑い緊急医療へつなげる」に関する内容で、今回の誤判断「帰宅させ一人で経過をみてもらう」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「頸肩部の筋緊張だけとして施術する」に関する内容で、今回の誤判断「帰宅させ一人で経過をみてもらう」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「帰宅させ一人で経過をみてもらう」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「帰宅させ一人で経過をみてもらう」は不適切である。理由は、緊急評価が必要な所見である。この論点での適切な判断は「頭蓋内損傷を疑い緊急医療へつなげる」である。

JS05-PDF-119

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：紹介判断・画像検査が必要な症例を判断する】「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨折型や転位、関節内損傷は画像検査で評価する必要がある。

イ. 鑑別に重要である。

ウ. 骨折を見逃す可能性がある。

エ. 確定には画像が必要な場合が多い。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「負傷機転を聞かない」に関する内容で、今回の「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛があれば全て捻挫とする」に関する内容で、今回の「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像なしで必ず骨折型まで断定する」に関する内容で、今回の「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「必要な画像検査が行える医療機関へ紹介する」が適切である。根拠は、骨折型や転位、関節内損傷は画像検査で評価する必要がある。

JS05-PDF-120

5-4 施術所実務 > 紹介判断 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：紹介判断・外傷以外の病態を疑う紹介判断を理解する】実習生が「全て筋疲労として扱う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 腫瘍・感染・内科疾患などの可能性を考慮し、柔道整復の範囲だけで完結させない。

イ. 原因の再評価が必要である。

ウ. 全身症状を伴う場合は鑑別が必要である。

エ. 適切な医科評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「外傷以外の疾患を考え、医療機関へ紹介する」に関する内容で、今回の誤判断「全て筋疲労として扱う」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「長期間同じ施術だけ続ける」に関する内容で、今回の誤判断「全て筋疲労として扱う」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「全て筋疲労として扱う」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「医療機関受診を止める」に関する内容で、今回の誤判断「全て筋疲労として扱う」の理由ではない。

総合解説：「全て筋疲労として扱う」は不適切である。理由は、全身症状を伴う場合は鑑別が必要である。この論点での適切な判断は「外傷以外の疾患を考え、医療機関へ紹介する」である。

JS05-PDF-121

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・重症外傷の初期優先順位を理解する】「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 救急評価が必要である。
- イ. 救命処置が最優先である。
- ウ. 重症外傷では局所損傷より先に生命維持に関わる問題を確認する。
- エ. 生命危機の評価が先である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「筋力訓練を開始する」に関する内容で、今回の「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「保険請求の説明を先に行う」に関する内容で、今回の「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患部の可動域測定を最初に行う」に関する内容で、今回の「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「生命維持に関わる意識・気道・呼吸・循環を優先して評価する」が適切である。根拠は、重症外傷では局所損傷より先に生命維持に関わる問題を確認する。

JS05-PDF-122

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・開放骨折の応急処置を理解する】実習生が「創を開放したまま歩行させる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 開放骨折は緊急性が高い。
- イ. 汚染や組織損傷を悪化させる。
- ウ. 出血・感染・転位悪化の危険がある。
- エ. 汚染と軟部組織損傷を増やさないよう保護し、専門治療につなげる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「創の存在を無視して閉鎖骨折として扱う」に関する内容で、今回の誤判断「創を開放したまま歩行させる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨片を何度も創内へ押し戻す」に関する内容で、今回の誤判断「創を開放したまま歩行させる」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「創を開放したまま歩行させる」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「創を清潔に保護し、露出骨片を無理に押し戻さず医療機関へ搬送する」に関する内容で、今回の誤判断「創を開放したまま歩行させる」の理由ではない。

総合解説：「創を開放したまま歩行させる」は不適切である。理由は、出血・感染・転位悪化の危険がある。この論点での適切な判断は「創を清潔に保護し、露出骨片を無理に押し戻さず医療機関へ搬送する」である。

JS05-PDF-123

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・骨折の応急固定を理解する】「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経血管評価が必要である。
- イ. 神経血管障害の危険がある。
- ウ. 骨折部への動揺を減らし疼痛と二次損傷を抑える。
- エ. 二次損傷を招く。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「固定後は末梢を確認しない」に関する内容で、今回の「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「患部だけを強く圧迫する」に関する内容で、今回の「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「変形を確認するため何度も強く動かす」に関する内容で、今回の「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷部を安定させ、必要に応じ隣接関節を含めて固定する」が適切である。根拠は、骨折部への動揺を減らし疼痛と二次損傷を抑える。

JS05-PDF-124

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・固定前後の神経血管評価を理解する】実習生が「視力だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患肢の安全確認にならない。
- イ. 固定や転位により神経血管障害が生じていないか比較する。
- ウ. 神経血管評価とは無関係である。
- エ. 患肢末梢を評価する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「視力だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「末梢循環、感覚、運動機能」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「身長だけ」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「反対側肩の可動域だけ」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

総合解説：「視力だけ」は不適切である。理由は、患肢の安全確認にならない。この論点での適切な判断は「末梢循環、感覚、運動機能」である。

JS05-PDF-125

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・外出血の基本的応急処置を理解する】「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 止血が遅れる可能性がある。
- イ. 出血を増やす可能性がある。
- ウ. 多くの外出血では直接圧迫が基本となる。
- エ. 循環不全の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「出血部を何度も洗い流し続ける」に関する内容で、今回の「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「出血部を強く揉む」に関する内容で、今回の「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「止血確認をせず歩行させる」に関する内容で、今回の「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「清潔なガーゼ等で出血部を直接圧迫する」が適切である。根拠は、多くの外出血では直接圧迫が基本となる。

JS05-PDF-126

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・頸椎損傷の搬送原則を理解する】実習生が「頸部を大きく回旋させながら起こす」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 脊髄損傷を悪化させる可能性がある。
- イ. 危険な操作である。
- ウ. 脊髄損傷の疑いがある。
- エ. 頸髄二次損傷を防ぐため不用意な頸部運動を避ける。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「頸部を大きく回旋させながら起こす」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「首の可動域を最大まで確認する」に関する内容で、今回の誤判断「頸部を大きく回旋させながら起こす」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「麻痺があっても自力歩行させる」に関する内容で、今回の誤判断「頸部を大きく回旋させながら起こす」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「頭部と体幹を一体として動かし、頸椎を保護する」に関する内容で、今回の誤判断「頸部を大きく回旋させながら起こす」の理由ではない。

総合解説：「頸部を大きく回旋させながら起こす」は不適切である。理由は、脊髄損傷を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「頭部と体幹を一体として動かし、頸椎を保護する」である。

JS05-PDF-127

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・脱臼の安全な応急対応を理解する】「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折合併や神経血管障害がある可能性があり、反復操作は危険である。
- イ. 緊急評価が必要である。
- ウ. 損傷を悪化させる。
- エ. 二次損傷を招く。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「神経症状を無視して帰宅させる」に関する内容で、今回の「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患部を積極的に運動させる」に関する内容で、今回の「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折の有無を確認せず何度も強く整復する」に関する内容で、今回の「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「神経血管状態を確認し、無理な反復整復を避けて緊急医療へつなげる」が適切である。根拠は、骨折合併や神経血管障害がある可能性があり、反復操作は危険である。

JS05-PDF-128

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・切断指の保存と搬送を理解する】実習生が「切断指を廃棄する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 保存状態を悪化させる。
- イ. 凍結による組織障害を招く。
- ウ. 切断指は乾燥と直接凍結を避け、冷却しながら専門医療へ搬送する。
- エ. 再接着の可能性があるので搬送する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「切断指を温水に浸す」に関する内容で、今回の誤判断「切断指を廃棄する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「切断指を氷へ直接埋める」に関する内容で、今回の誤判断「切断指を廃棄する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「清潔に包んで袋に入れ、その袋を冷却しながら搬送する」に関する内容で、今回の誤判断「切断指を廃棄する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「切断指を廃棄する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「切断指を廃棄する」は不適切である。理由は、再接着の可能性があるので搬送する。この論点での適切な判断は「清潔に包んで袋に入れ、その袋を冷却しながら搬送する」である。

JS05-PDF-129

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・コンパートメント症候群の応急対応を理解する】「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 区画内圧上昇による血流障害は時間依存性が高く、迅速な対応が必要である。
- イ. 症状を悪化させる可能性がある。
- ウ. 緊急評価が必要である。
- エ. 脈拍消失は末期所見である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「疼痛が強い部位を強く揉む」に関する内容で、今回の「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「運動で血流を確認するため歩かせる」に関する内容で、今回の「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「脈がなくなるまで待つ」に関する内容で、今回の「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「締め付けの強い固定があれば見直し、速やかに緊急医療へつなげる」が適切である。根拠は、区画内圧上昇による血流障害は時間依存性が高く、迅速な対応が必要である。

JS05-PDF-130

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・外傷性ショックを認識する】実習生が「通常の運動後反応」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 循環不全所見を説明しない。
- イ. 外傷後の循環不全所見は出血性ショックを示唆し、生命維持を優先する。
- ウ. 急性ショック所見とは無関係である。
- エ. 血圧低下を伴う場合は重症評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単純な筋疲労」に関する内容で、今回の誤判断「通常の運動後反応」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「出血性ショック」に関する内容で、今回の誤判断「通常の運動後反応」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「慢性肩こり」に関する内容で、今回の誤判断「通常の運動後反応」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「通常の運動後反応」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「通常の運動後反応」は不適切である。理由は、血圧低下を伴う場合は重症評価が必要である。この論点での適切な判断は「出血性ショック」である。

JS05-PDF-131

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：応急処置・急性足関節外傷の応急処置を理解する】「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折鑑別に重要である。
- イ. 急性期は損傷程度を評価し、二次損傷を防ぎながら疼痛・腫脹を管理する。
- ウ. 損傷を悪化させる。
- エ. 循環障害の危険がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨性圧痛を確認しない」に関する内容で、今回の「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折の有無を確認せず全力走行させる」に関する内容で、今回の「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腫脹が強いほど強く締め付ける」に関する内容で、今回の「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨折などを鑑別しながら患部を保護し、必要に応じ圧迫・挙上等で腫脹を管理する」が適切である。根拠は、急性期は損傷程度を評価し、二次損傷を防ぎながら疼痛・腫脹を管理する。

JS05-PDF-132

5-5 症例判断 > 応急処置 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：応急処置・応急手当と医師同意の関係を理解する】実習生が「長期間の継続施術すべて」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折・脱臼では原則医師同意が必要だが、応急手当は例外とされる。
- イ. 安全性と制度要件を満たす必要がある。
- ウ. 継続施術には原則として医師同意が必要である。
- エ. 療養費の対象外である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「応急手当」に関する内容で、今回の誤判断「長期間の継続施術すべて」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患者希望による任意の整復反復」に関する内容で、今回の誤判断「長期間の継続施術すべて」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「長期間の継続施術すべて」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「慢性肩こりへの保険施術」に関する内容で、今回の誤判断「長期間の継続施術すべて」の理由ではない。

総合解説：「長期間の継続施術すべて」は不適切である。理由は、継続施術には原則として医師同意が必要である。この論点での適切な判断は「応急手当」である。

JS05-PDF-133

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：経過観察・外傷の経時評価項目を理解する】「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 主要な臨床経過指標ではない。

イ. 時間経過による改善・悪化を多面的に評価する。

ウ. 患者状態とは無関係である。

エ. 外傷経過の主要指標ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「天候だけ」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「施術所の混雑状況だけ」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者の身長だけ」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛、腫脹、可動域、機能、神経血管所見」が適切である。根拠は、時間経過による改善・悪化を多面的に評価する。

JS05-PDF-134

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：経過観察・改善経過に応じた負荷進行を理解する】実習生が「機能評価を中止する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 再損傷リスクがある。

イ. 復帰まで継続評価が必要である。

ウ. 拘縮・筋萎縮を招く。

エ. 改善を確認しながら固定・運動・荷重を調整する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「初日から最大負荷へ戻す」に関する内容で、今回の誤判断「機能評価を中止する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「機能評価を中止する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「改善していても永久に完全固定する」に関する内容で、今回の誤判断「機能評価を中止する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「治癒段階と組織安定性に合わせて負荷を段階的に増やす」に関する内容で、今回の誤判断「機能評価を中止する」の理由ではない。

総合解説：「機能評価を中止する」は不適切である。理由は、復帰まで継続評価が必要である。この論点での適切な判断は「治癒段階と組織安定性に合わせて負荷を段階的に増やす」である。

JS05-PDF-135

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：経過観察・経過中の神経血管変化を認識する】「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血・神経障害の危険がある。
- イ. 圧迫を悪化させる。
- ウ. 速やかな対応が必要である。
- エ. 新規の末梢神経血管症状は緊急性を含む重要な変化である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「固定効果が高い証拠として放置する」に関する内容で、今回の「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「さらに強く締める」に関する内容で、今回の「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「次回来院まで確認しない」に関する内容で、今回の「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「固定による神経血管圧迫や損傷悪化を疑い直ちに再評価する」が適切である。根拠は、新規の末梢神経血管症状は緊急性を含む重要な変化である。

JS05-PDF-136

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：経過観察・改善不良時の再評価を理解する】実習生が「患者の訴えを記録しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 治癒遅延や見逃し損傷、他疾患の可能性を再評価する。
- イ. 経過不良は重要な情報である。
- ウ. 再評価が必要である。
- エ. 原因確認が先である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「初期評価を見直し、必要な画像検査や医科紹介を検討する」に関する内容で、今回の誤判断「患者の訴えを記録しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「患者の訴えを記録しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「改善しなくても同じ内容を無期限に続ける」に関する内容で、今回の誤判断「患者の訴えを記録しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「負荷を無条件に増やす」に関する内容で、今回の誤判断「患者の訴えを記録しない」の理由ではない。

総合解説：「患者の訴えを記録しない」は不適切である。理由は、経過不良は重要な情報である。この論点での適切な判断は「初期評価を見直し、必要な画像検査や医科紹介を検討する」である。

JS05-PDF-137

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：経過観察・固定中の皮膚経過を評価する】「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 悪化させる。

イ. 固定障害の代表的所見である。

ウ. 圧迫や摩擦による皮膚障害の可能性がある。

エ. 皮膚壊死へ進む可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「発赤部へさらに圧を集中する」に関する内容で、今回の「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「皮膚状態は固定と無関係とする」に関する内容で、今回の「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「固定が適切な証拠なので放置する」に関する内容で、今回の「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「固定の適合性と皮膚状態を再評価し、必要に応じ修正する」が適切である。根拠は、圧迫や摩擦による皮膚障害の可能性がある。

JS05-PDF-138

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：経過観察・感染徴候を経過観察で認識する】実習生が「温熱を強く追加して経過を見る」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所炎症所見の増悪と発熱は感染の可能性を示す。

イ. 感染を悪化させる可能性がある。

ウ. 感染を除外すべきである。

エ. 医科的評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「感染を疑い医療機関での評価を優先する」に関する内容で、今回の誤判断「温熱を強く追加して経過を見る」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「温熱を強く追加して経過を見る」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「治癒が順調な証拠と判断する」に関する内容で、今回の誤判断「温熱を強く追加して経過を見る」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「記録せず施術を継続する」に関する内容で、今回の誤判断「温熱を強く追加して経過を見る」の理由ではない。

総合解説：「温熱を強く追加して経過を見る」は不適切である。理由は、感染を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「感染を疑い医療機関での評価を優先する」である。

JS05-PDF-139

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：経過観察・負荷増加後の反応を評価する】「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 症状増悪は負荷進行が早すぎるサインとなる。
- イ. 再損傷や炎症増悪の可能性がある。
- ウ. 治癒状態の再評価が必要である。
- エ. 段階的進行が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず正常なのでさらに荷重を増やす」に関する内容で、今回の「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「画像や臨床所見を確認しない」に関する内容で、今回の「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛を無視して競技復帰させる」に関する内容で、今回の「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「負荷が組織の許容量を超えた可能性を考え、荷重量と治癒状態を再評価する」が適切である。根拠は、症状増悪は負荷進行が早すぎるサインとなる。

JS05-PDF-140

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：経過観察・復帰前の経過評価を理解する】実習生が「歩ければ全競技へ即復帰する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 左右差は参考になる。
- イ. 競技ごとの機能要求を評価する。
- ウ. 再受傷予防に重要である。
- エ. 日常生活が可能でも競技負荷に耐えられるとは限らない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「健側との比較は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ全競技へ即復帰する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「歩ければ全競技へ即復帰する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疲労時の動作は確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ全競技へ即復帰する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛だけでなく可動域、筋力、安定性、競技特異的動作を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ全競技へ即復帰する」の理由ではない。

総合解説：「歩ければ全競技へ即復帰する」は不適切である。理由は、競技ごとの機能要求を評価する。この論点での適切な判断は「疼痛だけでなく可動域、筋力、安定性、競技特異的動作を確認する」である。

JS05-PDF-141

5-5 症例判断 > 経過観察 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：経過観察・患者による経過観察の指導を理解する】「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経障害の可能性がある。
- イ. 患者自身が警告所見を認識できることが早期対応につながる。
- ウ. 緊急所見を見逃す。
- エ. 皮膚障害の早期発見が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「しびれは全て正常と説明する」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「悪化しても次回予約まで連絡しないよう説明する」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「固定部の皮膚は確認しなくてよいと説明する」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛・腫脹・しびれ・皮膚色など悪化時に受診すべき所見を具体的に説明する」が適切である。根拠は、患者自身が警告所見を認識できることが早期対応につながる。

JS05-PDF-142

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：医科連携・骨折・脱臼における医科連携を理解する】実習生が「医師同意は患者を診察せず得るものだから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折・脱臼とは取扱いが異なる。
- イ. 業務範囲内の外傷を扱う。
- ウ. 患者を診察した上での同意が前提である。
- エ. 骨折・脱臼に対する継続施術には医師同意が求められる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「打撲・捻挫にも必ず医師同意が必要だから」に関する内容で、今回の誤判断「医師同意は患者を診察せず得るものだから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「柔道整復師は外傷を一切扱えないから」に関する内容で、今回の誤判断「医師同意は患者を診察せず得るものだから」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「医師同意は患者を診察せず得るものだから」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「応急手当を除き原則として医師の同意が必要だから」に関する内容で、今回の誤判断「医師同意は患者を診察せず得るものだから」の理由ではない。

総合解説：「医師同意は患者を診察せず得るものだから」は不適切である。理由は、患者を診察した上での同意が前提である。この論点での適切な判断は「応急手当を除き原則として医師の同意が必要だから」である。

JS05-PDF-143

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：医科連携・紹介時の情報共有を理解する】「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 医療機関での判断に重要である。
- イ. 臨床情報が不足する。
- ウ. 客観的所見と疑いを区別する。
- エ. 診断・治療の優先度判断に必要な情報を簡潔に共有する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「応急処置内容を隠す」に関する内容で、今回の「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「患者の症状を伝えず氏名だけ伝える」に関する内容で、今回の「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「推測だけで確定診断を伝える」に関する内容で、今回の「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「受傷機転、発症時期、主要所見、神経血管所見、実施した応急処置」が適切である。根拠は、診断・治療の優先度判断に必要な情報を簡潔に共有する。

JS05-PDF-144

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：医科連携・画像診断が必要な症例で医科連携する】実習生が「画像なしで必ず骨折型を確定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折型・転位・関節内損傷などは画像評価が必要となる。
- イ. 安全性を優先する。
- ウ. 適切な検査へつなげるべきである。
- エ. 必要な症例では重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「画像検査が可能な医療機関へ紹介する」に関する内容で、今回の誤判断「画像なしで必ず骨折型を確定する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患者の希望がなければ重症所見も無視する」に関する内容で、今回の誤判断「画像なしで必ず骨折型を確定する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「画像なしで必ず骨折型を確定する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「画像検査は柔道整復の経過判断に不要である」に関する内容で、今回の誤判断「画像なしで必ず骨折型を確定する」の理由ではない。

総合解説：「画像なしで必ず骨折型を確定する」は不適切である。理由は、適切な検査へつなげるべきである。この論点での適切な判断は「画像検査が可能な医療機関へ紹介する」である。

JS05-PDF-145

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：医科連携・全身症状を伴う場合の医科連携を理解する】「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 柔道整復療養費の対象外となる内科的疾患も鑑別する必要がある。
- イ. 病態を誤る可能性がある。
- ウ. 適切な評価が必要である。
- エ. 重要な紹介情報である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「全て外傷性捻挫として施術する」に関する内容で、今回の「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「医科受診を避けるよう説明する」に関する内容で、今回の「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「全身症状は記録しない」に関する内容で、今回の「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「内科的・感染性疾患も考慮し医療機関へ連携する」が適切である。根拠は、柔道整復療養費の対象外となる内科的疾患も鑑別する必要がある。

JS05-PDF-146

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：医科連携・医師処置後の後療連携を理解する】実習生が「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 再損傷の危険がある。
- イ. 医科での処置内容を把握し、整合した施術を行うことが安全である。
- ウ. 治療方針を損なう可能性がある。
- エ. 重複算定はしない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨癒合状態を確認せず最大負荷を行う」に関する内容で、今回の誤判断「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「医師の処置内容と指示・同意を確認し、治療段階に応じて後療を行う」に関する内容で、今回の誤判断「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「医師が整復済みでも再度整復料を算定する」に関する内容で、今回の誤判断「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」の理由ではない。

総合解説：「医師の固定内容を確認せず独自に変更する」は不適切である。理由は、治療方針を損なう可能性がある。この論点での適切な判断は「医師の処置内容と指示・同意を確認し、治療段階に応じて後療を行う」である。

JS05-PDF-147

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：医科連携・薬剤・既往歴を踏まえ医科連携する】「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 状態の評価が先である。
- イ. 出血を悪化させる可能性がある。
- ウ. 出血リスクの重要な背景情報である。
- エ. 薬剤や基礎疾患は外傷後出血の程度と重症度判断に影響する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「腫脹が強いほど運動負荷を増やす」に関する内容で、今回の「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「強いマッサージで血腫を散らす」に関する内容で、今回の「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「薬剤情報は外傷評価と無関係とする」に関する内容で、今回の「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「出血リスクを考慮して医療機関での評価を検討する」が適切である。根拠は、薬剤や基礎疾患は外傷後出血の程度と重症度判断に影響する。

JS05-PDF-148

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：医科連携・救急時の申し送りを理解する】実習生が「応急処置内容を伝えない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 治療継続に必要な情報である。
- イ. 緊急度判断に影響する。
- ウ. 搬送先が迅速に状態を把握できる情報を共有する。
- エ. 患者状態の情報が不足する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「応急処置内容を伝えない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「異常所見を省略する」に関する内容で、今回の誤判断「応急処置内容を伝えない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「外傷機転、意識・呼吸循環、神経血管所見、固定や止血など実施内容を伝える」に関する内容で、今回の誤判断「応急処置内容を伝えない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「施術所名だけ伝える」に関する内容で、今回の誤判断「応急処置内容を伝えない」の理由ではない。

総合解説：「応急処置内容を伝えない」は不適切である。理由は、治療継続に必要な情報である。この論点での適切な判断は「外傷機転、意識・呼吸循環、神経血管所見、固定や止血など実施内容を伝える」である。

JS05-PDF-149

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：医科連携・業務範囲と医科連携の原則を理解する】「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患者安全を損なう可能性がある。
- イ. 鑑別と紹介判断が必要である。
- ウ. 患者安全のため、自身の業務範囲と限界を認識して連携することが重要である。
- エ. 再評価と適切な連携が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「専門外でも確定診断して治療を続ける」に関する内容で、今回の「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「他疾患の可能性を考えない」に関する内容で、今回の「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「症状悪化を患者の責任とする」に関する内容で、今回の「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「無理に完結させず、必要な専門医療へ紹介・連携する」が適切である。根拠は、患者安全のため、自身の業務範囲と限界を認識して連携することが重要である。

JS05-PDF-150

5-5 症例判断 > 医科連携 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：医科連携・医科評価後の継続管理を理解する】実習生が「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 医科の評価を施術内容に反映し、状態変化時は再連携する。
- イ. 新しい情報に基づき計画を見直す。
- ウ. 継続管理の記録が必要である。
- エ. 治療の整合性が損なわれる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「診断・処置内容・注意事項を確認し、施術計画と経過観察へ反映する」に関する内容で、今回の誤判断「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「紹介後は経過を記録しない」に関する内容で、今回の誤判断「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「医療機関の診断内容を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」の理由ではない。

総合解説：「以前と同じ施術を状態に関係なく続ける」は不適切である。理由は、新しい情報に基づき計画を見直す。この論点での適切な判断は「診断・処置内容・注意事項を確認し、施術計画と経過観察へ反映する」である。